

コ、ニ難件アリカイゴシニ居ル人ナラハ海軍宰相へ送ルニ及ハス即チカイゴシへ行キ直チニソノ地ノ裁判所へ訴フルナリ

佛ノ飛脚船ニテ現場カイゴシニテ訴訟ヲナセリ然ルニソノ被告人ヲ呼出スニ佛國ヨリ呼出状ヲ送ルニアラヌ直チニソノ地ニテ呼出状ヲ送ルナリ

併シ被告人教人アルトキハ各地ノ一人ノ裁判所ニ揃ハサルヲ得サルトアリタトハハ被告人ノ内一人巴里府ニアリ其餘人屬地又ハ外國ニアル時

ハ原告人ノ撰ヨリ巴里府裁判所ニ訴出スソノ時ハ此條ヲ用ヒ海軍宰相又外務宰相へ送達シテ夫々其呼出状ヲ届ケシム

目下ボアツナト日本ニアリ被告人トナリケルトキハ外務宰相ヨリ日本へ送達スルナリ

万一巴里人サエゴンへ遊ヒニ行キタルトキ巴里ニ家族アリソノ時ニモサエゴンへ呼出状ヲ送達スハキヤ

一時遊ヒニ行キタルトキハ巴里ノ住所へ送達ス尤モ親族朋友等ニテ猶豫ヲ願フナリ

併シ至急ノトハ猶豫スヘカラス代理アレハ代理又ハ朋友ニテ防クナリ

万一事件ニヨリ本人ニアラサレハ能ハサルトアルトキハ猶豫ヲ願フナリ

猶豫ヲ願ヒタリトモ原告人ニテ兼知セサルトアリ

然レトモ本人ノ未タ知ラサルトキハ允席裁判ス
ル一能ハス

日本ニ雇ハレタル等ニテ歸ル一能ハサルトキハ
如何スヘキヤ

代理ヲ立テ置クナリ

佛国ニ於テハ一旦暇ヲ政府ヨリ受ケテ外國へ行
キタルモノハ訴訟ノ為ニ帰国セヨト云フ權ハ
無之但シソノ期限外ニ政府ノ替ハリタルトキハ
格別ナリトス

併シ刑事ニ於テハソノ政府ヘ呼ビ戻シテ頼ム一
アリ

ボアソナードハ官員ニテ三ケ年間日本ニ来ルモ
ノユヘ三年内ハ呼ビ返ス一能ハス

平民ナレハ一生モ呼ビ返ス一能ハス

官員ハソノ限内歸ラサルモ自由ナリト雖モソノ
官ヲ先フ

三年ノ期限外更ニ滞留ヲナシ度トキハ本国政府
ヘ願フナリ万一允許ナキトキハ官ヲ免セラレ度
ト云フマテナリ

詩話法會議筆記

七年六月五日

第六十九條出板

六月五日

第七十條前二定ナタル規則ニ循ハサルニ於テハ其

呼出状ノ効ナカレ可シ

過日未説キタル如ク呼出状ノ効ノアルトナキト

ニ付テハ正條中ニ効ナシト云ハサルモノハ効ナ

キモノトスルニアラサルナリ

此條ニ於テ別段ニ効ナキ一ヲ一條ニ立テタルモ

ノハ元ヨリ前二條ノ毎項ニ入ルハキモノナレト

モ餘リ繁雜ナルユハ惣括シテ簡畧ニシタルモノ

ナリ

呼出状ノ効ナキ一ハ第六十條第六十四條第六十

五條第六十六條第六十八條第六十九條中ノ諸件

歛ケタルトキナリ

条日ニ出ス呼出状又ハ價ヲ記セサル呼出状ハ効
ナキニハアラヌ過日説キタル通りナリ

使吏ノ錯誤ニテ管轄違ヒノ裁判所ニ呼出状ヲ以
テ被告人ヲ呼出スルアリ

タトハハ人推ニテ被告人住所ノ裁判所ニ呼出ス
ヘキヲ使吏ニテ取違ヘ物件所在ノ裁判所ニ呼出

スルアリ
是等ハ取消トハナラス何トナレハソノ委細ノ
ハ裁判所ニアラサレハ知ルヲ得サレハナリソ

ノ時ハ裁判官ニテ何レノ裁判所ニ出ツヘシト指
示スルモアリ又被告人ニテ自カラ此裁判所ニ出

ツヘキニアラスト申述フルモアリ故ニ被告人
ハ必ス呼出サレタル裁判所ニ一應出席セサル

ヲ得ス

里教ノ距離又ハ呼出ノ期限ヲ間違ヘタルトモ亦
取消トハナラス被告人ニテ其間違ヒヲ申^述ヘ相當
ノ日ニ出ツヘシト届ケ置ク時ハ夫レニテ済ムナ
リ

第七十一條第七十二條ハ説キタリ此ニ贅セス

第七十一條使吏ノ過失ニテ呼出状ノ効ナキニ至

リシ時ハ其使吏呼出状送達ノ謝金ヲ失ヒ及ヒ取消
シトナリタル訴訟ノ費用ヲ償ヒ且其時ノ模様ニ因

リ原告人ニ其損害ノ償ヲ為ス可シ

右ハ全ク使吏ノ過失ニ屬スルヲ説ク此ノ過失

ハ元ト小ナルモノナレモ亦大ナルヲモアリ即チ

過日説キタル使吏ノ罰金及ヒ預レスクリテシヨ

シノコヲ指シテ云フナリ

第七十二條

佛蘭西国内ニ住居スル者ニ付テハ呼

出状ヲ送達シタルヨリ裁判所ニ出席スルニ至ル迄

ノ定期ヲ八日トス

迅速ニ審判ヲ為ス可キ場合ニ於テハ裁判所ノ上席

人原告人ノ別段ノ願ニ因リ定期ヨリモ更ニ速ニ被

告人ヲ呼出スルヲ許スルノ言渡ヲ為シ得可シ

此條モ過日説キタリ前項ハ呼出ノ定期ヲ八日ト

スル迄ナリ後項ハ至急ノ時裁判官ノ許シテ得ル

ヲ要スル迄ナリ百六十二年五月三日如左換フ

第七十三條

佛蘭西本国外ニ在ル者呼出ヲ受クル

時ハ其呼出ヲ受ケタルヨリ裁判所ニ出席スルニ至

ル迄ノ期限尤ノ如シ

遠方ニ居ルモノハ出席期限ノ延ヒルコトヲ云フ

遠近ノコトニ付テハ日本ニテハ此裏迄シニ法ヲ立

ツルハ夫レニテ可ナリ

佛ノ遠キ所ハ日本ノ近キ所トナレハナリ

第一「ズルズ島アルゼリー」不列顛諸島以太利佛蘭

西ニ隣接シタル國ニ在ル者ニ付テハ一月ノ時間

此ニ記スル所ノ地方ニ於テハ八日ノ代リニ一

ヶ月ノ時間トス

普國ハ近時連邦トナリタリ其国内ノ宜敷ク佛國

ヨリ算スルトキハ極テ近キ隣國ト比スレハ里程

ノ遠キ所ハモアレモ佛ト隣邦ナル故ヲ以テ全國

中都テ一ヶ月トス

若シ普ニテオハ、ストリヤヲ取り連邦トナサハタ

ト其国廣大ナリト由一邦ト云故ニ其期限ヲ一
ケ月トスリノ中間ニ別国ナキユヘナリ
日本ヨリイハ、魯西亞モ亦一ケ月トス可シ壞地
隣接スレハナリ然レモ魯ハ九国ナリ其歐洲ニ接
スル野マテハ太ク遠シ其期ヲ述ヘサルヲ得ス
元来此期限立テ方ハ不都合ナリ隣接ノ国ト云フ
モ皆近キ處ニアラヌ前項ノ通り隔遠ノ地方アリ
日本ヨリ亞米利加ハタトヒ對岸ノ国ト雖モ其間
ニ大洋ヲ隔テタルユハ隣接ニアラヌ
此項ニコレス又ハ英國等ヲ入レタルモノハ其間
海アレモ接近ノ国ナレハナリ
抑此法律ノ例ニ循ヒ距離ヲ以テ立ツル中ハ公平
ナルヘケレモ外国里數ニ至リテハ中ニ人ニ能ク

知り得ルトニアラヌ故ニ大畧一ケ月又ハ何ケ月
ト定メタルナリ
遠方ニアルモノ呼出ヲ受タル時巴里等ニ其朋友
アリテ事情ニヨリテハ日延ヲ願出ルトアリ其時
ハ裁判官ニテ拒ムトモアレモ大槓ハ土ヲ許ス
一ケ月ト記載スルハ被告人ノ手ニ呼出状ノ落タ
ル日ヨリ起算スルユハ實地差支ニハ成ラサルナ
リ其三十日間ニハ名代ヲ出ストモ代書師ヲ在フ
トモ充分ニ出来ルトナリ
極メテ遠方ナレハ外務卿ヨリ送達シ其屬地ナレ
ハ前ニ説キタル通り海軍卿ヨリ送達スルト故其
送達ハ其被告人アル地ノ全權公使ニ達シ公使ヨ
リ岡士ハ達シ岡士ヨリ其當人ニ渡ストナレハ其

送達 = 不分明ナルトナシ
公使 = 送ル呼出状ハ印ヲ寫シナリ本書ハ通例裁
判野ニアリ
今「ホアツソナー」ト自カラ其送達ノ仕方ヲ考ヘ居
ルナリソノ方ヨロシキト思フナリ
何レノ國何レノ村町ニテモ經緯度中ニ総括セサ
ル地方ハ之レナシソノ經度ニ付テハ幾日緯度ニ
付テハ幾日ト起算スル法ナリ佛國ニテ使吏ハ大
抵度数位ハ知り居ルニテ地圖ヲ見テ直チニ算
ヲ立ルト得ルヘシ
緯度一度ハ佛ニテ廿七八里ニナリ英ニテハ
少シ寡ナカラシカ故ニ一緯度毎ニ二日ヲ増ス
トナシ經度モ亦然リ

佛國ニテ一アルロンドンニ付キ八日ヲ缺樹
何ヲ樹元ニ立傍人知ル能ハス元ト立テソレヨリ一
度ニ付テ三日トナシタラハ充分ナラン
三日トナセハ三日^{日本ノ七里半程}毎ニ一日ノ割合
ニ當ルナリ
日本ニ於テハ佛ト違ヒ未タ道路ノ便ナキ故別ニ
猶豫ナカルヘカラス
佛ニ於テモ古ヘハ三ヨリヤナート^リ今ハ五
ヨリヤナート^ルナリ千六百六十三年ノ改正ナリ
古ヘ訶訟法ヲ編成セシ頃ハ通信不便利ナリシ故
其里程ヲ短カク定メタリ今ハ錢道縱橫甚タ便利
ナルエハニ其里數ヲ増シタリ
凡ソ法律ハ開化ノ度ニ循ヒ變化スルモノニテ其

進歩ノ度ニ應シ時々改正セサルハカラスタトハ
ハ旅行ヲ徒歩ニテスル時代ハ一日三ヨリヤナ
トルモ遠シトセス若シ此後空船ニテ往來スルニ
至ラハ一日十ヨリヤナトルトシテモ可ナラン
第二 其他政羅巴又ハ地中海ノ濱岸又ハ黒海ノ濱
岸ニ於ケル国ニ在ル者ニ付テハ二月ノ時間
政羅巴トハ歐洲中ノ近國ヲ云ヒ又地中海ノ濱岸
トハ「チユニス」五チプト等ノ地ヲ云ヒ又黒海濱岸
トハ歐洲トルコノ北邊魯西亞ノ南邊等ノ地ヲ惣
テ云フ
及ヒ「ソンド」ノ海峡ヨリ
第三 政羅巴外ニテ「マラツカ」ノ海峡ヨリ近ク又ハ
ホルン岬ヨリ直キ地ニ在ル者ニ付テハ五月ノ時間
チブラルリルノ瀬戸ヲ過クレハ此中ニ入ル

「マラツカ」
蘇門
「マラツカ」
「ソンド」ノ海峡ヨリ

「マラツカ」
「マラツカ」ノ海峡及ヒ「ソンド」ノ海峡又ハ「ホルン」岬ヨリ遠キ國ニ在ル者ニ付テハ八月ノ時間
但シ海上戦争ノ時ハ海外ニ在ル者ノ為メ其定期ヲ
倍ス可シ

「マラツカ」云々ト云フトキハ支那日本モ此中ニ入
ル邊ニ廣クシテ的實ナラス故ニ経緯度ノ說然ル
可シト思フナリ末文戦ノ節ハソノ期限ヲ倍スル

トアリ五ヶ月ハ十月トナリ八ヶ月ハ十六ヶ月
トナル迄ナリ

第七十四條ノ佛蘭西国外ニ住所アル者佛蘭西ニ在
ル時呼出ヲ受ケタルニ於テハ佛蘭西国内ニ住所ア
ル者ト同一ノ定期内ニ出席ス可シ
但シ別段ノ道理アリテ裁判所ニテ其定期ヲ更ニ延
シタル時ハ格別ナリトス

若シ佛国外ニ住所アルモノニテモ佛国内ニテ見
當レハ本国ニ住所アルモノト同様ナリソノ時ハ
被告人自身ハ外国ニ住居アルヲ以テ外国ヨリ呼
出ス期限ニ出ツハシト云フヲ得ス
以上ノ期限ハ之レヨリ短カクスルコトハ出来サレ
トモ裁判官ノ見込ニテ猶豫ヲ興フルコトハ出来ル

ナリ

原告人ヨリ日限ノ違算アルトキ被告人ニテ定期
ニテ出席セスレテ可ナリト云フ時ハ出テスレテ
可ナルヤ又ハ手教アリヤ

ソノ違算ノ廢ヲ申立定期ニ出席ス可キ旨ヲ書翰ヲ
以テ裁判所ニ書送クルナリ
タトヒ被告人ニテ届出テサルモ元ヨリ裁判官ニ
テ呼出状ヲ捺シ違算アルトキハ被告人ハ欠席裁
判ニハセス定期マテハ待テ居ルナリ

第七十四條餘論

プレスクリプション三十年期限ノ終リタル後原
告人ヨリ訴ハタルニ付プレスクリプションノ推
アルコトヲ申出ルナリ萬一之ヲ申出サレハ満期ノ

権ヲ失フヲ以テ相當ノ裁判ヲ受テ更ニ勘定ヲ立
テサレ可カラスソノ然レ可ハ治産ノ禁中又ハ
幼年中等ハ三十年ノ期限ニ算入セストハ治
産ノ禁ヲ免カレタル中又ハ丁年ニ至リタルトキ
ヨリ再ヒ起算スルナリソレ等ノ差引ハ裁判官ハ
知ラス故ニ必ス其旨ヲ申出サレ可カラス

第七十五條以下

第七十五條以下裁判言渡マテハ甚長シ然レモソ
ノ間ハ格別肝要ノ一ナレ依テ大意ノミヲ説ク可
シ裁判言渡ハ肝要ナルモノニ付之ヲ委シク説カ
ン

呼出状中ニ日限八月ノ内ニ出席セサルハカラス
ト云フ決シテ自分ノ體ヲ以テ裁判所ニ行クニハア

ラス代書人ヲ立ルナリ

被告人呼出状ヲ受リレハ右ノ日限中已レノ代書
人ニ立テソノ代書人ニテ原告人ノ代書人ハソノ
趣ヲ云ヒ遣ハセハソレニテ是レリ之ヲ出席シ
タルト云フナリ

被告人ニテ手翰ヲ送ルニ及ハス代書師ヨリ手翰
ヲ送ルナリ

代書師ヨリ代書師ハ手翰ヲ送ルニハ裁判席ハ出
ツル使吏ニテ送達シソノ貨ヲ取ル

右八月ノ期限内ニ代書師ヲ立ツレヨリ十五日内
ニ被告人ヨリ原告人ハ答辯書ヲ遣ハスナリ第七
十七條見合

過日説キタル如ク訴訟ノ證據又ハ訴訟ノ目的ト

ナルヲ書テ送ルナリ之レモ代書師ニテ取扱ヒ
本人ハ手ヲ付ケス
被告ノヨリ答辯書ヲ送ルニ此金院ニ掛ヒタリト
云フトキハソノ受取書ヲ代書師ヨリ代書師ニ送
ルニモアリ又送リテ不都合ナルトキハ被告ノ
代書師ノ書記局ニ送り置キテ原告ノ代書師ヨ
リ被告ノ代書師ノ方ニ相談ニ来ルトキ之レニ
示スニモアリソレヨリ原告人ニテ八日以内ニソノ
答弁書ヲ出ス
元ヨリ原被告人ニテ答弁ヲ出スモ出サ、ルモ勝
手次第ナリ之ヲ出サ、ル中ハ直ニ招書ヲ送リテ
裁判ヲ乞フナリ
此章ハ此外格別肝要ナルナリ

第八十三條

元ノ訴訟ハ換事ニ報告スハシ

元ヨリ訴訟ハ私法ニテ人民保護ノ肝要ナルモノ
ナリ故ニ換事ソノ中ニ立入り保護セサレハカラ
サルナリ

訴訟ハ一人ニテノ私事ナレトモ時ニヨリ一般ノ公
益ニ關スルナリソノ時ハ換事ソノ中ニ必ス立
入ラサルヲ得スソノケ條ハコ、ニ掲ク

幼身治産ノ業ヲ受ケシ人既ニ婚セシ婦等ノ事ニ
付テハ換事之レヲ保護セサルヲ得ス

第八十三條ノ一項ヨリ五項マテハ公益ニ係ル第
六七項ハ能力ノナキモノ係ル

而後項ヲ逐テ説カントス

第一 国ノ安寧ニ管シタル訴訟官府ニ管シタル訴訟

官ニ屬シタル土地邑葬ニ公舎ニ管シタル訴訟貧人
ノ為メ公ケテニナシタル贈遺ニ管シタル訴訟

國ノ安寧ニ関シタル訴訟ハ人民ノ私益ト公益ニ
係ルナリ

クトハハ武器ヲ人民互ニ取扱フ之レ私益ナリ保
シ武器ノ取扱ハ國ノ禁スルモノナルニ至レテ取
扱フハ則チ國ノ安寧ニカ、ル故則チ一般ノ公益
ニ関スルナリ

此處原文ヨロシカラス

國ノ安寧ニ管スルト記スルハ物ニノミカ、ル文
ナリソレニテハ意セマシ譯文ニ於テハ物モ事モ
包含スル文ナリ譯文ノ方ヨロシ
タトハハ刑事ノ許ハアリ之レハ全ク國ノ安寧ノ

ニナリ

此所ハ私益ヨリ出テ公益ニ觸レテ居ルモノナリ
日本ニ於テ未タ外国人一般ニ行ク能ハサル地ア
リ然ルニ日本人ニ於テ外国人ノ行クヲ得サル地
ニ於テ約束スルコトアリ之レニ人ノ約束ト虽モ一
般ニ関シ危キコト生スハ之レ私益ヨリ公益ニ
関スルナリ政府ニ管シタル土地等ニ於テハ人民
一般ノ訴訟ト同様ナリト虽モ此時ハ按事立入ル
ナリ立入ルコト必ス下級事件ニ付意見ヲ述フ
ソノ縣令ハ原告被告トナルト虽モ按事立入ルナ
リ

邑ニ於テモ亦人民一般ト同シ邑モ人民モ害アリ
テハナラサル為メニ按事之レニ立入ル

公會トハ貧院病院等ナリ之レ亦人民一般同様ノ
モノナリ之レニ管スル訴訟ニハ換事立入り双方
ノ為ナニスルナリ

人ノ死スルトキ貧人ノ為ナ公ケ・贈遺スルトニ
付キタリル訴訟ニ於テハソノ死スル人有餘ナクシ
テ親屬ノ為ナニナラサルカ又ハ有餘アリテモ親
屬ニテ渡サ、ル等貧人ノ為ナニナラサルカイツ
レ双方ノ為ナニ換事立入ルナリ

此七項ハ換事ノ義務ナリ其他ハ此七項ノ後文ノ
如ク換事ヨリ立入ルトモアリ又裁判官ヨリ立入
レト云フトモアリ

裁判席ニハ換事ハ必ラス陪席スルナリ何トナレ
ハ不意ニ立入ルハキ事ノ生スルトアリ又民事ノ

半ハヨリ刑事ノ起ルトアリ但シ裁判官ニテ見
モ見込ヲ申立サルトキハ然レ止ムノミ

獨逸ニテハ擔當ノ訴訟ニアラサレハ換事ハ出席
セス候シ出席セサレハ不都合ノトアリ万一訟庭
ニテ一人忿怒生シ裁判官ハ靴ヲ投ケ付ケルトア
ラハ誰レカソノ罰ヲ請フハキヤ換事ナリ

同法書

同法書

評訟法會議筆記

七年六月十日

七年六月十日

第八十三條

第二 人ノ身上及ヒ後見ノ事ニ管シタル訴訟

此項ハ人ノ身上即チ^身分^シ證書ニ関スルナリ^身ノ上ト云ヒタルノミニテハ其意狭シト云フ説アリ

「エタシビルニ関スルノ第一ハ人民死生ノトニテ其生レタルトキ一通ノ證書ヲ作り死シタルトキ又一通ヲ作ル

ソノ「エタシビル」ノ争ヒハ何時ニ之レヲ作りタルカ又其アルカナキカノトヨリ起ル

其第二ハ因ニ関係スルトニテ^ニ佛カ英カヲ区別スル為メナリ

第三ハ年齢ニ関スルニテ第何年何月ニ生レタ
ルニ付キ其丁年カ幼年カラ分明ニスルガメナリ
第四男女ノ區別ニテ何レノ國ニ於テモソノ權利
ハ男女一様ナラサルナリ

第五人ノ生レタルトキヨリ無病ナル歟又ハ精神
錯乱シタル歟ヲ記セサルハカラス

第六親ト見認メ子ト見認ナルニテ其私生公生
ニ関セス父ハ誰レト母ハ誰レト記載スルナリ

第七相當ノ婚姻シタル人ノ子カ又ハ相當ノ婚姻
セサル人ノ子カラ記載スルナリ

以下七件ハ「エタシビル」ノ根元トナルヘキ大切ノ
モノナリ

右ヲ簡畧ニイハハ 死生 何國 何年 男女ノ

區別

生レタル中精神ノ有無 誰ノ子 婚禮ノ有無ノ

七件ナリ

死ト生トヲニツニ分ツテ八件トス

外ニ一件アリ刑事ニ於テ施體加辱ノ刑ニ係ルモ

ノハ「エタシビル」ニ書キ入ルヘシ前ノ件々ヲ合セ

テ九件トス可シ

「イタリヤ」ニテハ治産ノ禁ヲ受ケタル「ヲ書キ入

ル」ナリ併ニ「此分欠ケタリ

ソ」ノ書キ入レヲナスニハ

刑事裁判所ヨリ民生官吏ニ達シ民生官吏ニテ「エ

タシビル」ハ書キ入ルヘシ

又有期無期ノ刑ハ書ク方可然入獄以下ハ書クニ

及ハス

佛ニテ死刑ニ處シタルモノハ其刑死シタルトハ書セズ益シソノ親族ノ耻辱ニナラサル為メニス又其書セサル所以ハ婚姻ノ節子ノ為メニ耻ヲ包ムト云一説アリ

抑エタシビルニ人ノ生死婚姻有無等一般ノトヲ記スル趣意ハ人民ノ契約ヲ結フ時等用心ノ為メニ書記スルトナリ

死刑ニ於テハソノ人ノ終リユヘ更ニ契約ヲ結フ等ノトナク惣テ關係モナキユヘ書スルモ用ヲナサスソノ人ノ耻ヲ包ミ書セサル方然ルヘシ
エタシビルノトニ付テハ何レノ國ニモ欠ケアリイタリヤモ欠ケアリ

日本ニテ之ヲ作ラント欲セハ各國ノ欠ケヲ受ケサル様アリタシ

タトヘハ婚姻ノトハ書ケトモ婿トナリタルトハ書カスユヘニ何人モソノ人ハ未タ人ノ妻ナリト思フナリ

佛ニテモ不都合ヲ生スルトアリ一婦ニテ両夫ヲ持トアリエタシビルニ書付テナキユヘ婿ニナリタルヤナキヤヲ知ル能ハス終ニソノ婿トナリタル書付ヲ持參セヨト云フトナシ

又英國人ノ佛ニ歸化スルトアリソノ歸化シタル時ニ別ニエタシビルヲ作り本國ノエタシビルハソノ委細ヲ書キ入ル、トナシ故ニ歸化ノ人民ハ兩國ノ權利ヲ持ツ等ノトアリ

此国ノ人トナリタリト云フハソノ本国ハ通
達ハセス

ソノ人ノ帰化シタルトキハ「コンセイエイトタ
ノ兼諾ヲ以テ勅書ヲ作り言渡スナリ故ニ其欠
ナキヲ要スルニハ其帰化人ヲ編入シタル国ノ民
生官吏ヨリソノ原籍ノ官吏ハソノ趣ヲ文通スレ
ハ不都合ナカルヘシ

以上ハ「エ」タレビルノ根元ヲ説キタリ

以下ハ右「エ」タレビルノ「ト」ニ付テノ訴訟ハ換事ハ
告クヘシト云フ「ト」ヲ説クヘシ

ソノ「エ」タレビルニ関スル「ト」ハ初メヨリ起ル「ト」ア
リ又訴訟ノ半ハヨリ起ル「ト」アリ

「ト」ハ子ノ父母ニ求ムル訴訟即チ人ニ巴レノ

親ナリト訴フル「ト」ニ「エ」タレビルニ関スル主タ
ル訴ナリ

婚姻ノ「ト」ニ付テハ我カ夫ナリ我カ婦ナリト訴フ
ル「ト」ハナキ「ト」ナレバ婚姻破約ノ訴ハ毎々之レア
リ

「テ」ニ適セサル婚姻ニ於テ争ノ生レタル中ハ裁判
官ニテ婚姻破約ヲ言渡ス然レバソノ生レタル「ト」
キノ「エ」タレビルニ書入ル「ト」ナシ

又父母ノ知レサル子ノ父母ヲ尋ヌル「ト」ニ付キ父
母ノ分カリタルトキハ裁判上ニテ其子ナリト言
渡サレ且子ハソノ言渡ノ書付ヲ所持スルマテ其
事ヲ「エ」タレビルヘ書入レス

子ノ親ヲ見認ル事

夫ニテ我カ婦ノ子ヲ我カ子ニアラス姦通ノ子ナ
リト云フ事

婚姻ヲ破約スル事

此三件ハ首タル訴訟トナル

外ニ二件アリ

風癩トナリ治産ノ禁ヲ受ル事

風癩ノ直リテ民権ヲ復スル事

此等ハ大切ノ事ナリ

右ハ私益ト公益ト混ス何トナレハ「エタレビル」ハ

私益ナレモ公益ニワタルナリ

後見ノ「」ニ管シタルトハ後見人ノ不勤ニ因テ之

ヲ退クル等ノ事ニ付テノ訴訟ナリ是レヲ此ノ二

項ニ出シタレトモ第六項ニ幼者云々ト有之幼者

云々ト有之幼者ノ「」ト云ハ後見人ノ事モ含ミ

アルユハ此所へ出サストモヨロシ

後見人ハ幼年ノモノニ限ル

佛ノ法律如此不備ナル故ハ此ノ法律ヲ編集セシ

モノハ当時皆ナ裁判上実地ニ故ニ僅カニ年月ヲ

過キ一方ニテ死去スレハ誰モ知ル「」ナク只ソノ

書付ケアルノミ

「エタレビル」ニハ何某ノ子ト書テアレモ後ニ至リ

アノ子ハ姦通ノ子ナリト云ヒ訴訟トナリソノ子

ノ頁トナリタルトキハソノ言渡書ヲ其親カ所

持スル「」ニテ子ノ「エタレビル」ニ書キ入レサルユ

ハ其ノ「エタレビル」ニハ以前ノ通りソノ人ノ子ニ

ナリ居ルナリ

右等ハ皆エタシヒルノ欠ケナリ

私生ノ子ヲ見認メタルトキハ「エタシヒル」ニ書キ入レルナリ前ニ云フ書キ入レサルハ元ヨリ嫡出ノ子ノ親ノ知レサルトキノ「ナリ」

右ハ「ホリス」ニ関スル「」ニハ無立行政官吏ニテ世話ヲナシテ書キ入ルハキナリ之レヲ書キ入レサレハソノ人一代ノ事蹟分明ナラス

「」タシヒルニ関スル「」ニ付換事ニ告ケサルヲ得サル「」尤ノ如シ
經歷シタルモノニテ我カ業前ニ依テ作りタルエハナリ

千八百四十年ノ頃併ノ法学校ヨリ各代トシテ「」マングバラ「」ナト出タリソノ節ハ扱ヒタル法律

ハ甚タ宜シ従前曖昧タル文意アリテ説キ兼タル「」ヲモ法学ノカニ因テ充分ニ書キ頭ハシタリ故ニ此頃出来タル法律ハ今尚ホ称賛セリ

其後「」ナホレオン「」三代目「」ドカツサレオンノ長ヲナシタル「」トムロンブト云フ人ノ作りタル「」ホテ「」キ「」ノ法律其ノ趣意ハ甚タヨロシケレ共其

編成疎漏ヲ免カレス佛ニテ一般遺憾ナリト云フ前ニ私益ナレモ公益ニ涉ルト説キタルハタトハ

風癩人ヲ一般ノ人ト一同ニ置クトキハ如何ナル害ヲナスヤモ知ルハカラス又ソノ人ヨリ言ハハ自カラ事ヲ為シテ如何ナル損ヲナスヤモ亦知ル

ハカラス此等ノ類ヲ云フ

法律ヲ以テ保護スルノ此ノ如シト雖モ時ニヨリ
狂院中ニアリナカラ治産ノ禁ヲ受ケス私ノ財産
ヲ勝手ニ支配スルノナトアリ

高浜上澤山ノ仕入等ニテ一時恍惚トナリタルモ
ノヲ直チニ風癩人トナシ更ニ金談ヨリソノ證人
ニテ出未ソレカガメ裁判官ニテモ真ノ風癩ト認
ナ狂院ニ入ル、ナト終之レアリ併ノポーフィー
カント云フ一婦人アリ三十歳斗リナリソノ人ノ
父ノ死シタルトキソノ母ニテ嫡男ニ財産ヲ譲リ
タキガメニソノ婦人ヲ風癩ナリト訴ヘ一時ソノ
裁判トナリタリ因テソノ婦人控訴シテヨキ代言
人ヲヤトヒ遂ニ勝テタリ尤モ右婦人ハ少シク風
癩ニ似タルトナリトアリシ故ニ前件ノ訴ヘニ及

ヒタルトナリ

ソノ婦人ハ始メ各國ニ旅行シタリ因テ各國ノ語
ナトヲ覺ヘ膳太クナリ多分ノ金ヲモ費ヤシタリ
右等リ康ヲ以テ風癩ト申出タルナリ
ホアツソナートモ其婦人ニ逢ヒタリ尤モ時ニ異
ナル所アルヲ看ルト云フ

第三 裁判所ノ管轄異ナルヲ以テ其裁判所ノ吟味
ヲ受クルトテ拒ム訴訟

ソノ訴訟ノ品ニヨリテ夫ニ裁判所ノ違ヒアルト
ハ過目説キタリ

ソノ裁判所ノ違ヒタルニ付キ必ラスソノ裁判所
ノ裁判ヲ受クヘシト云フトキノトテ云フ
拒ムト訣シアレモ強情ニ抗拒スルトニアラスツ

ノ裁判所ヲ避ル義ナリソノ時ハ此ノ権限内ニアラスト丁寧ニ云フナリ

ソノ私益ト公益ト関スルト云フトハ被告人ノナキ裁判ハ元ヨリナキトナレモ裁判所ハ人民ニテ尊敬ヲ尽クサハルハカラス故ニ裁判所ノ當不當ヲ論スハカラサルモノユヘ換事ハ告ケ換事ニテソノ當否ニ付キ意見ヲ述フ即チ公益ト私益ナリ此トニ付キ下モニ正條アリ故ニ贅セス

第四 数箇ノ裁判所ノ管轄相觸ル、時其中一箇ノ裁判所ニ定ム可キ為ナナシタル訴訟裁判役ニ付キ故障ヲ述フル訴訟裁判役相手方ノ親族ナルニ付キ他ノ裁判所ニ訴訟ヲ移サントスル訴訟

原文ニテ言ハハ裁判官ノ規則ト書イテアリ此譯

文ハ直譯ニアラス意譯ナリ此ノ意ハ裁判所ニツトモ我権内ニアラスト云ヒ又タニツトモ我権内ナリト云ヒタルトキノ一ヲ云フナリ

裁判所ノ規則ハ第三百六十三條以下ニ之レ有リ治安裁判所ニツニテ共ニ我カ権内又ハ我カ権外ト云フトキハ縣裁判所ニテ同様ナル時ハ控訴廳ニテ之レヲ定ム控訴廳ニテ同様ナルトキハ覆審院ニテ之レヲ定ム

縣裁判所ニツニテ争フトキハソノ管轄ノ控訴廳ニテ之レヲ定ム併シ巴里ト能ハズトノ如キハ控訴廳ノ争ヒノ時ハ他ノ控訴廳ニテ之ヲ定ムルト能ハストカツサシオンニテ定ムルヨリ外ナシ

タトハハ被告人巴里ノ裁判所ニ呼出サレタルト
 キツノ被告人ニテ権内ニアラス云フトキハソノ
 裁判官ニテ直チニ此ノ裁判所ノ権内ナリト裁判
 ス若シソノ時ボルドー裁判所ニテモ同シク我カ
 権内ナリト云フトキハ権限ノ争ヒトナルソノ時
 ハソノ上ノ控訴廳皆管轄違フ故ニ大審院ニテ定
 ム管轄外ノ裁判所ニ於テ争フ時其縣邑ノ裁判所
 ヲ論セス皆之レヲ定ムルハ大審院ナリ
 裁判役ニ付キ故障ヲ述フル許訟トハ我カ親族ノ
 モノ裁判官ナルトキノ一ナリ原告モ被告モ云フ
 一アリ親族ノ六級マテハ避クル一ナリ
 右ヲ避クル一ニ就テハ別ニ法アリ故ニ縷述
 セス

裁判官相手方ノ云々ハ親族一人ナルトキハ其裁
 判官ノ代ハルノミニ人以上ノ親族アルトキハソ
 ノ許訟ヲ他ノ裁判所ニ移スナリ
 裁判所中ノ一局ニ二人ノ親族アルト云フニアラ
 ス一ノ裁判所中ニ二人アル一ヲ云フナリ
 差シ控訴裁判所第一局ニ出ツルニソノ局ニ親族
 一人アリト云フ一ヲ許フレハ他ノ裁判官ヲ以テ
 代ラシム
 之レニ互シソノ一局ニハ親族一人アリ他ノ局ニ
 二人アル時故障申立ツレハソノ控訴廳ニテ許訟
 ハ取上ケス
 タトハハ巴里ニテ親族アルタメ許訟ノ出来サル
 トキハソノ近傍三ヶ所ノ内最モ近キ控訴廳ニ移

ス
 故障申述フル時縣裁判所ニテハ親族二人以上控
 訴願ニテハ親族三人以上アレハ其所ニテ訴訟ハ
 取上ケス
 之ヲ願ヒ出ルニハ原被双方書付ヲ以テ其訴事ヲ
 取扱フ間ハヨシ既ニ裁判所ニ出テ争ヲ初ントス
 ルトキニハ違シ
 右ノ場合ニ於テ原被告人共ニ裁判所ニ出争フマ
 テ故障ヲ述ヘサルトキハ裁判スルトモヨロシ又
 親族アルヲ知リテモソノ訴ヲナサ、ルトキハヨロ
 シ
 右ハ義務ニハアラス只法律ニ於テ夫レ尤ケノ自
 由ヲ与ヘタルモノナリ

使吏ノ云々トハ同シ様ナレモ親族ノ為ナニト書
 テアリ自カラ別アリ
 裁判官ニ在ツテハ親族ノ為ナニ私シハナサ、ル
 モノト信スルナリ
 使吏ハ人物モ劣リ其弊モ自カラアル故ニ親族ノ
 為ナニスル云々ト別段禁シタリナリ右ニ注意セ
 サルヘカラサルナリ使吏原告人ノ為ナニ呼出
 状ヲ送達スルトキ被告人ニテ其親族ノ為ナナリ
 ト云ハサレハソノ効ノナキヲ掩テ仕舞フナリ
 之レ効ナキ呼出状ノ効アルモノニナルヲ云フ
 右ノ事ハ第百七十三條ニ詳カナリ使吏ニテ親族
 ノ為ナニ送達シタルトキハ訴訟トナル前ニ言ハ
 サルヘカラス裁判官ニ親族アルトキハ裁判所ニ

出テ言ヲ發セサル前ニテハ申立テ若シカラスソ
ノ時間ハ呼出状ニ付テノ時間ヨリハ甚タ長キモ
ノナリ

使吏ノ親族ノ為ナニナシタルトキハ其呼出状ヲ
送り直ス

裁判官ノ親族ナルニ付キ他ニ移ストキハ訴訟ヲ
仕直スナシ

ソノ訴訟ヲ他ニ移ストキハ請取リタル文ケノ書
キ付ケテ他ノ裁判官ニ引渡スナリソノ請取リタ

ル裁判官ハ八日内ニ何程ノ書類アリトモ悉ク閱
セサルハカラス

右等ノ一モアルニ佛ニテモ身方ニナルトナラサ
ルトノ事ハ能ク防キテアルナリ

之レニモ換事ノ立入ル一ハソノ裁判所ニテ請取

リテモ心付カサル一アリ裁判所ニテ人ノ疑ヲ受
テハナラサルニ換事ニテ意見ヲ述フル一ナリ

第五 裁判役不正ノ裁判ヲ為シタルニ因リ其裁判
ヲ取消サントスル訴訟第五百五條
見合

此項ノ譯文ハ原書ノ意ヲ敷衍シテ書キタルモノ
ナリ原文ハソノ人ニ荷擔シタル一トアリ

前項ノ意ハ裁判官ニテ過テヲナスヤノ疑アルニ
此項ニテハ既ニ過テヲナシタル一ナリ

此項ハ既ニ裁判ヲナシタル後ノ一ナリ
親族ヲ云フニアラス一般人ニ係リ編頗ノ裁判ヲ

ナシタルニ付テ一ナリ第五百五條ニ詳カナリ
其類惣テ四件アリ

○計畧ヲ用ユ ○書類ヲカクス

○賄賂ヲ取ル ○ソノ人ノ為メニ裁判スルコトヲ

拒ム之レ等ヲ荷擔スルト云フコトナリ

刑事事ニハ此項ニアタルコト多シ

重キヲ輕クスルコト又ハ不吟味ノコト等アリナリ

タトハバ其荷擔スル裁判官一人ナルトキハソノ

裁判所ハ許フ二人以上ナルトキハ一等ノ裁判所

ハ許フ

若シ右安裁判所ナレハ縣裁判所ハ許フ縣裁判所ニ

テ二人以上ナレハ控訴廳ハ許フ

縣裁判所ニテ一人ナルトキハ只其裁判官ヲ換ヘ

タルノミニテ許フ聴ク

裁判所ニテハソノ荷擔ノ有無ヲ取調ヘ其荷擔ニ

無相違トキハ其ノ裁判所ヨリ書付ヲ渡ス其ノ

書付ヲ以テ控訴廳へ出シ控訴廳ニテソノ當否

ヲ判ス

若シソノモノニ於テ申立ノ實ナラサルトキハ

ソノ裁判ヲ受ケ更ニ三百ラレクノ罰ヲ受ケ

右ハ控訴トシテ之ヲ取上ルニアラス元ノ裁

判ノ當否ヲ判スル為メナリ

控訴廳ニテ此事起レハ覆審院ニテ此更ヲナス

以前ハ臨時裁判所へ出ス此來ハ説キタル通り

ナリ

區裁判所ニ訴ケタルモノ不服ニテ府縣裁判所

へ上告シ終審コトナリタルトキ此更ナルモ失張

リ控訴廳へ持出スケリ

タトハハ千五百フラニク以下ノ裁判ヲ乞ヒ終
審トナルワノ時ニ終裁判官ニ決事アリタルト
キハ即チ控訴應ク出ス

終裁判所ニ於テ終審ノ裁判ニ付裁判官ノ偏
頗アルト訴クタルトキソノ裁判所ニ取調強
クノ事ヲテリタルリキハ書付ヲ以テ彌アリト
ソノ訴人ニ達スソコヲ控訴應ク出ワ控訴應
ニテ取調一萬一ソノ裁判ノ宜シカラサルトキ
ハワノ夏ヲ違ス

原被ノ内一方ノ疑心アルモノアリソノ上ノ裁判
所ニ出ス石ヲ檢査ニテ聞カサルヲ得ス即チ公
益ト利益ト相関渉スルモノナレハテリボアソテ
ード自カラ考フルニ終審ノ裁判ヲラハ控訴應ク

出ワルテハ前ニ説キタル通りテリ始審ノ裁判
ニ於テハ控訴スルノ道及ヒ荷擔ヲ訴フルノ道
モアリ何レヲ先スヘキ哉法律上未タワノ取極
メ無之

ワノ時ニハ控訴ノ出尋ルテテラハ控訴スル方
ヨロシ何レケレハ万一裁判官ノ荷擔シタル
テテキリキハ自カラハ罰ヲ受ケ裁判官ニ對
シテハ償金ヲ出シ其上裁判ノ法ニ適シタルト
キハ何ノ役ニモタズ

訴訟法會議筆記

七年六月十五日

第八十三條

過日説キタル中ニ非常ノ道ヲ以テ上告スル
トト通常ノ道ヲ以テ上告スルトト相混スル
トヲ説カン一體訴訟ニ上告ノ規則アリ又故
障申立テノ規則アリテ彼ト此トアルトキハ
此方ヨリ訴フヘキナリ
タトヘハ故障申立ノ道ト上告ノ道ト二ツア
ルトキハ故障ヲ先キニシ上告ヲ後ニスルト
リソノ中ニモ此レハ大審院ヘ訴フルト彼レ
ハ「レケートシヒル」ヘ訴フルト區別アリ
過日説キタル裁判官ニテ荷擔ノ裁判シタル
ニ付訴出ルトニ於テハ別段ノ規則ナシ

今縣裁判所ニテ千五百フランク以上ノ始審
ヲ十スニ不服ナレハ上等ノ裁判所ニ控訴ヲ
ナシテ裁判ヲ受ケ猶不服ナルトキハ大
審院へ上告ス故ニ縣裁判官ニテ賄賂ヲ取り
荷擔ノ裁判ヲ為シタルトキハ控訴ノ道モアリ
又大審院へ上告ノ道モアリソノ時ハ先ツ控
訴ノ道ヲ踏ミ登リ控訴廳へ出ツ是レ通常ノ
道ナリ

然ルニ控訴シタルモノ勝タリ因テ前ノ裁判
官ノ賄賂云々ノ一ハ消滅ス

右ニ及シ控訴ニテ頁ケタリソノ時ハ賄賂ヲ
取りタリトモ前キノ裁判ヲ怨ム一能ハス
若シ其控訴ハ止メニシテ賄賂ヲ取りタル裁

裁判官ヲ相手取り其枉法ノ一ヲ訴フル時ハ
是非常ノ道ニテレケトシヒルへ訴フソノ
時ハ控訴スル一能ハス

懸裁判所ニテ枉法ノモノ一人ナレハ其人ヲ
相手取り二人以上ナレハ裁判所ヲ相手取り
控訴廳ノレケトシビルへ訴フソノ時ハ控
訴ノ道ハ断ユ

右ノ通り通常非常ノ両道アルトキハ必ラス
控訴ヲ先ニナスへシ何ナレハ枉法ヲ訴へテ
万一頁ケルトキハ罰金ヲ出シ且裁判官へ償
金ヲ出ス一トナル甚タ危嶮ノ一ナリ
故ニ控訴ノ方ヲ先ニスルナリ
枉法アル場合ニ於テハタトへ其枉ラレタル

人ヨリ訴へストモ檢事ノ耳目アリ裁判官ノ
罪ハ何レヨリカ發覺シテ譴責トナルトモレ
ハ我ニ於テ遺恨ナカル可シ
夕トハ縣裁判所ニテ終審ヲナシタル訴ヲ
控訴廳へ訴タルトキ裁判官ノ枉法アラハ大
審院へ上告ス
ソノ時取消ノ道ト枉法ヲ訴フルトノ兩道アリ
ソノトキハ必ラス取消ヲ前キニナスナリ
大審院へ訴へタルトキ大審院ニテソノ取消
ノ上告ハ立タ、スト申渡シレタルトキハ前
ノ控訴廳ノ裁判全ク善キモノトナル
故ニソノ時ハ手ヲ替へテ裁判官ノ枉法ヲ訴
フ是レ非常ノ道ナリ

大審院ニテ裁判ヲコハシタルトキハ縣裁判
所ノ裁判ハ消ユルナリ右ニ及シテ大審
院ニテ取揚ケサルトキハ縣裁判所ノ裁判
ハ役ニ立ツナリ
縣裁判所ヨリ控訴廳へ出ツルニ於テモ同前
ノ如クテ大審院ニテソノ上告ヲ取り揚ケタ
ルトキハ控訴廳ノ裁判ハコハサレタルモノ
ニテ枉法ヲ訴フルニ能ハス
大審院ニテ上告ヲ取揚ケタルトキハ縣裁判
所及ヒ控訴廳ノ裁判トモ役ニ立ツトハ固ト
大審院ハ裁判ヲコハス事ニテ裁判ヲナス
所口ニアラス故ニ元トノ裁判ハ役ニ立テ居
ルナリ

若シ大審院ニテソノ上告ヲコハシタルトキ
ハ他ノ控訴廳へ移シテ裁判セシム
裁判官枉法ノ事ハ僅ニアルトナリ万一之ア
ル時ト雖モ枉法ヲ訴フルハ危キトナルニ因
リテ必ラス先ツ上告ノ道ヨリ為スナリ
故ニ控訴上告シテ意ノ如ク勝テタルトキハ
ソレ切ニテ済ムナリソノ時ハ裁判官枉法ノ
事ハ訴フルトテ得ス

裁判官枉法ノトハ刑事ニ属スルトニテ必ス
檢事ヨリ告ルナリ

「^區カントン」ハ始審ニテ「^縣アロ

トナリタルトキハ控訴ハ出未サルナリソノ
時ハ大審院へ上告スルナリ

「^カツサシオント」ハ裁判ヲコハス所ト云フ
ナリ
但シ訴訟ヲ下ケルトモアルニ付キ下ケルノ
義モアルヘキナレモコハスノ字義ナリナリ

「^クール」ハ上ノ裁判所ト云フ義ナリ
若シ欠席裁判ニ逢ヒタルトキハ故障ヲ申立
ル道ト枉法ヲ訴フル道トニツアリ

故障ノ方ハ間違ヒテモ後ノ災ヒナシ枉法ヲ
訴ヘテ万一誤リタルトキハ前ニ述タル通り
大ナル禍アリ

○

第六 夫ノ許諾ヲ得スシテ為シタル婦ノ訴訟
又ハ夫ノ許諾アリト雖モ其婦嫁資分括ノ契
約ニテ婚姻ヲ結ヒタル時其婦ノ嫁資ニ管シ

タル訴訟~~切~~者ノ訴訟~~其~~他原告、又ハ被告ノ一
方、管財人ノ補佐ヲ受クル訴訟

⊗ 能カトキモノニ付テ訴訟ノ起リタルトキハ
檢事ニテソノ人ノ為メニ防キ且保護セラル
ヘカラス

此項ニ付テ云フトキハ公益ノキト云フモ可
ナリ

併シ弱ヲ助クルハ公益ナルニ檢事之ヲ助
ケル為メニ聞クナリ

⊗ 婚姻ヲトセシ婦~~初~~年ノ後見ヲ免カレサル
モ~~或~~ハ後見ヲ免カレタルモノ

⊗ 治産ノ禁ヲ受ケ又精神ノキモノ
⊗ 風癲ニテ狂院ニ入ルモノ 治産ノ禁ハ受ケ又

「~~フ~~ロジツク」ト云テ精神ノ弱キ浪費者右ハ裁
判所ヨリ管財人ヲ附ケ置クナリ

此五ツハ能カトキモノナリ

婚姻ヲ為シタル婦ニテ夫ノ許シヲ受ケタル
モノハ檢事ニ告ケスト虽氏夫ニテ裁判所へ

出ツルトキ許サ、ルトキ婦ニテ訴訟ヲナス
トキハ必ラス檢事ニテ聞ク

夫ノ許シヲ受ケタリトモ檢事知ラサルヲ得
ナルトツマリ

賤産持寄りノ婚姻契約アル時ナリ其契約ニ
於テハソノ賤産利息ハ遣ヒテモ苦シカラス

ト虽氏元トノ賤産ハ勝手ニ動カスヲ能ハス
右ニ付テノ訴訟ハ檢事聞カサルヲ得ス

幼年ハ後見ヲ免カレ、トモ免カレサルトモ
親族會族ノ許シテ受ケサレハ訴訟ヲナス
ヲ得ス

後見ヲ免カレタルモノハ契約ヲナスヲ得ル
トモ訴訟ニ於テハ許シナケレハ之ヲナス
テ得ス原書ニハ其他ノ字ヲ一般ニ作ル惣
テ管財人ノ補佐ヲ受ケタルモノ、訴訟ハ換
事ニテ聞カサルヲ得サル又意ナリ

○沼産ノ禁ヲ受ケタルモノ

○狂院ニ入ルモノ

○浪費者フロシツク

此三ツハ律上ニ別段書セサルトモ管財人
ノ補佐ヲ受クト書テアルユヘ此中ニ罷り居

ルナリ

婚セシ婦ハ弱質ノ為メニ民権ナシト云フニ
アラス嫁シテハ夫ニ従フノ道ヨリシテ能力
ナキモノト一般トス

其民権ハアリトモ夫ノ許シアラサレハ自
儘ニソノ権ヲ行フヲ得ス併シ夫ニテ拒ム
タルトモハ裁判所ニテ助ケルユヘ差支ハ無
之

第七 失踪ノ思度ヲ受ケタル者ニ管シタル訴訟

訟

又換事ハ其他ノ訴訟トモ氏已レノ于涉ス可
キトモ必要ナリト思量スル時ハ其訴訟ノ報
告ヲ得ント求ム可シ又裁判所ヨリ其職務

ヲ以テ換事ニ訴訟ヲ報告ス可キノ言渡ヲ為
ス
ト
ヲ
得
可
シ
○

佛ニテ失踪ト云フハ旅行中等ヲ云フニアラ
ス何レノ國ニ居ルヤ又ハ死生モ分明ナラサ
ルモノ之レヲ失踪ト云フナリ

失踪ニテ歳ヲ経ルニ迄ワテ此人ハ死シタル
ニテモアルヘシト思フナリ
右ニ付テ期限アリ

五年マテハ失踪ト思度スル者ト云フ五年ヲ
過クレハ失踪者ト云フ決シテ死シタル証ナ
キニ死セリト云フヲ得ス

タトヘ死セストモ財産ノ取扱アルニ付キツ
ノ処分ノ規則ヲ立ツルナリ

若シ人代理人ヲ置カスシテ他行シタル時失
踪ト思フトキハソノ財産ヲソノコトニ置ク

ト能ハス依テ其關係ノモノヨリ訴出レハ縣
裁判所ヨリ管財人ヲ立ツルナリ

失踪ト思フトキハ債主等ヨリ訴へ出ツレハ
裁判所ニテ取調ヘノ上失踪ト思度スル者ト

ナス

其失踪ノ思度ヲ受ケシ者

諸會計又ハ會社ノ分配又ハ相續ノ分配及ヒ
其惣會計會社ノ惣會計等ニ付テハ公証人ニ
テ立合代理ヲナスナリ

以上四ヶ條ノ一ニ付テハ目錄等ヲ作ラサル
ヘカラス

若シ住所ノ裁判官権外ノ地ニ不動産アルト
キハソノ裁判所ニテ行届カサルニハソノ不
動産ノアル地ノ裁判所ニテ言送り代理人ヲ立
テソノ相当ノ処置ヲ頼ミ遣ハスナリ
失踪者自ラ代理ヲ置キタルトキハ十年間代
理ヲナサシメ裁判所ヨリ代理ヲ置キタルト
キハ五年間代理ヲナサシム
若シソノ代理惣代理ナルトキハ裁判所ヨリ
手ヲ付ケスモシ裁部分ノ代理ナルトキハ右
ヲ惣代理ニナストモ別人ヲ加ヘテ代理セシ
ムルトモ裁判所ニテ申付ルナリ
代理アルトキハ十年ノ後一ケ年ノ間穿鑿
ヲナシソノ一ケ年ノ後踪跡ノ分年サルトキ

ハ失踪者ト言渡スナリ
代理ナキトキハ五ケ年ノ内未ノ一ケ年ヲ穿
鑿期限トシ合セテ五ケ年ヲ過クレハ失踪者
ト言渡スナリ
一ケ年間穿鑿セヨト言渡ストキハ長出シテ
ナス太政官日誌ニモ載セ裁判所ノ新聞誌ニ
モ出ス右ニテ一向知レサルトキハ失踪者ト
ナス
此言渡シハ相續人債主其他関係ノモノヨリ
訴出ルニアラサレハ言渡スナリ
失踪ノ思度ト穿鑿トノ言渡シハ失踪者ノ子
孫又ハ其債主等ノ訴ニヨリ之レヲ言渡ス
弥失踪者ト言渡ストキハ必ラス相續人ノ訴

ニ依ルナリ

初メ失踪ト思度スルニ付キ代理ヲ申立ルト
キハ必ラス換事ヨリ申立ルナリ公益ノ為メ
ナリ後々失踪者ト言渡ストキハ換事立入
ラス

失踪者ト定マリタルトキハソノ弟姪等ニテ
相續人トナリテ仮リニソノ相續ヲナス其塚
ハ亦失踪トナリタル日ヨリ仮リニ相續シタ
ルト見做スナリソノ節ハ証人ヲ立ツ何トナ
レハソノモノ歸リ来ルトキハソノ財産ヲ返
サ、ルヲ得サレハナリソノ財産ヲ返ス期限
ハ失踪ノ言渡ヲ受ケタル日ヨリ三十年ニ至
ルナリ

代理アレハ前ノ十年ヲ合セテ四十一年代理
ナケレハ前五年ヲ合セテ三十五年ヲ過クハ
シソノ失踪者老人ニテ百歳ノトキニ至レハ
三十年ヲ待タス

三十年ヲ過クルカ又ハソノ失踪人ノ齡ヲ計
算シテ百歳ニモ過クルトキハ仮リノ相續人
真ノ相續ヲナシ度キ旨ヲ訴フソノ時ハ証人
モナキナリ

万一真ノ相續ヲナシタル後ニソノモノ歸リ
来ルトキハ相續人不平ナリトモ財産ヲ返サ
、ルヲ得ス

尤モ尽クハ返スニ及バズ費用シタルモノ賣
リタルモノハ其マ、ニテ返サズ現存スル物

件ノニ其終返スナリ

費用スル分ハ返スニ及ハスト云ヘトモ若シ

失踪者ノ不動産等賣リタル金ニテ買入レ

シ物件及ヒソノ利益等アレハ之ヲ返サ、ル

イヲ得ス

ソノ婦アルトキハ財産ノ約束ニヨリテソレ

ト違ヒアリト虽氏一々説明セント欲セハ婚

姻ノ契約ヲ尽ク説カサルヲ得ス故ニ暫ラク

置ク
失踪ノイニ付テノ立方ニ甚ク不條理ナルト

アリソノ婦タルモノハ百年ヲ過クルトモ再

婚スルコト能ハス

佛ニテ以前離婚ヲ許シタルトキト虽モ失踪

ヲ以テ離婚ヲ為ストヲ許サス

今日ハ離婚ノ法ヲ廢シタルニ付々驚クニ及

ハサレトモ人情ヨリ言ヘハ五ケ年ヲ過キタ

ラハ再婚ヲ許シテモ可ナルニ似タリ

失踪者ノ子アレハソノ養育ハ法律中ソレニ

ノケ條アリテ世話ノ為シ方アリ

第一ノ期限ノ時代理ヲ付ケルトキハ換事即

チ原告人トナル

ソノ他ノ場合ニテハ換事ニテ原告人トハナ

ラスト虽氏必ラス陪席テソレノ保護ヲナ

ス何ノ為メニ陪席シテ意見ヲ述フルト云フ

ニ孤独無依モノト思フユヘ保護セサルヘカ

ラス之レ換事ノ職掌ナリ義務ナリ

五年ト起算スルハ失踪者ノソノ地ヲ去リタル日ヨリ起算ス

去リタル後二ケ年ヲ過キテ如シ失踪ト思フトキハ後三ケ年ニテ五ケ年トナル

代理ヲ置テ去リタルモノハ穿鑿中一ケ年ヲ前ノ十ケ年ノ外ニ算シテ十一ケ年トナル代

理ヲ置カスシテ去リタルモノハ五ケ年中ニ穿鑿ノ一ケ年モアルナリ

第八十三條第一項ヨリ第七項マテノ一ハ必ス換事ニ通スヘキナリ万一換事ニ通セス

シテ裁判ヲナシタルトキハコレケートシビルト云フ非常ノ道ヲ以テ訴ヲ聴ク所ヘ出ツル

ナリ此コレケートシビルハ何レノ裁判所ニモコレアリ

万一換事陪席ナク又ハ陪席シテ意見ヲ述ヘサル時裁判ヲナスニ能カナキモノ、勝チタルトキ一方ノ能カアルモノニテコレケートシ

ビルハ出ツルヲ能ハス能カナキモノ、負ケタルトキハ必ラスコレケ

ートシビルハ出ツルナリ既ニ述ナル如ク本條ノ一項ヨリ七項マテハ

必ラス換事ニ通スヘシ其他ノ一ハ裁判官ニテ通セント思フトキハ之ヲ通シ換事ニテ聞

カント思フトキハ求メテ之ヲ聞ク裁判官ト換事トノ適宜ナリ故ニソノ場合ニ於テ原被

告人トモコレケートシビルハ出ツルヲ得ス

第八十四條

換事及ヒ其代役ノ共ニ失踪トナ
リ又ハ故障アル時ハ裁判役中ノ一人又ハ其
代役中ノ一人之ニ代ル可シ

換事及ヒ其代役ノ共ニ失踪ト書キタルハ
前ニ説ク失踪ノ如キニハアラスソノ場ニ
居ラサルトモナリ故障ト同シ

旅行或ハ病氣等ノトナリ

若シ換事及ヒ代役ノ居ラサルトモハ裁判官
ニテ之レニ代ルナリ此條別ニ説クナリ

訴訟法會議筆記

六月廿日

訴訟法

訴訟法

第百五章 吟味ノ事 吟味ノ公ケナル事

吟味取締ノ規則

第百八十五條 原告被告ハ其代書師ノ助ヲ得テ
 自ラ弁論スルヲ得可シ然レ原告又ハ被告之
 心情ニ因リ又ハ其者事故ヲ経サルニ因リ相当
 ノ禮義ヲ以テ其趣意ヲ述フルヲ能ハス又ハ裁
 判役ノ了知シ得可キ様ニ其意ヲ明白ニ述フル
 ヲ能ハサルナ裁判所ニテ知リタル時ハ自カラ
 弁論スルヲ禁スルヲ得可シ

此條ハ代書師ノ助ケハ原被トモ必ラス頼マ
 サルヘカラス自カラソノ訴訟ヲ拒クヲ能ハ
 サルトキハ代言人ヲ頼ムヘキヲ云フ
 相当ノ禮義トハ怒リニ堪兼テ罵詈スル等ヲ

云フ無禮ト云フ字ナリ
 心情トハ怒氣ヲ含ムトナリ
 事故ヲ経サルトハ場慣レサルナリ
 自カラ弁論スルヲ禁スル上ニハ代言人ヲ頼
 マサルヲ得サルナリ
 ハサキ町ハサキト云ハ繁昌ナリノ裁判所ニ至リ
 テハ代書人ニテ代言人ノ代リヲナス何トナ
 レハ代言人ノ名トテハ別ニ無ケレハナリ
 以テ一ツノ注意セサルヘカラサルハ被告
 人ノミ自カラ拒クニアラス原告人ニテモ自
 カラ拒クト勝手次第ナリ
 カントンニ在ル治安裁判所ニテモ代言人ヲ
 出シテ拒カシムルト妨ケナシ

アルロニデスマンニテモ小村ナレハ代書師
 ナ代言人トナスモ苦シカラス
 府縣裁判所ニテハ自カラ拒クト能ハサルモ
 ノハ代言人ヲ出スモ苦シカラス治安裁判所
 ニ於テ自カラ拒クトテ得サルトキハ親族朋
 友ヲ以テ代理人トナストテ得ル
 刑事ニ於テハ親族朋友ニテモ可ナリ民事ナ
 レハ必ラス代書師代言人ニ限ルナリ
 本條中文意ノ照応スル所ロアリ心情ニヨリ
 相当ノ禮義ヲ云々事故ヲ経サルニ因リ其趣
 意ヲ述フルト能ハス之レナリ
 第六十六條 双方共ニ相談ノ為メノミナリト
 モ在職ノ裁判役検事長代言人長検事長ニ共

ノ副負ヲシテ縦令掛リ以外ノ裁判所トモ口
上又ハ書面ヲ以テ已レノ訴訟ヲ助ケシムル
ヲ任ス可カラス然レ氏此等ノ官吏並ニ其副負
ハ何レノ裁判所ニ於テモ已レノ身ニ管シタル
訴訟宗系ノ血屬又ハ姻屬ノ親ニ管シタル訴訟
其後見ヲ為ス如者ニ管シタル訴訟ヲ為シテ自
ラ并論スルコトヲ得可シ
裁判所吟味中ニ昏付ヲ以テ旨意ヲ述フルモ
可ナリ之レヲ昏付ケノ相談ト云フ之レハ双
方ニテ調印シテ出シテモ可ナリ法律家ノ調
印ニテモ可ナリ
此昏付ケハ双方并論ノ前ニテモ其ニテモ并
論ノ後ニテモ可ナリ但裁判言渡ノ前ニアラ

サレハ能ハス

右ノ書付ケニテソノ訴訟ノ大畧ハ分明ニナ
ルナリ

此昏付ケノコトハ此章ノ大意ヲ撮ミテ説キシ
ナリ

此條ニ在職ト昏キタルハ右ニ及シタル裁判
官ノ名ノミアリテ非職ナルモノアレハナリ

休職中ナリ
ト在職ナリ
在職ノ官吏ニ此コトヲ禁スルハ私ヲ防ク為メ
ナリ

裁判官ハ已レノ身ニ管シタル訴訟以下記載
スル所ノ訴訟ニ於テ并論スルコトヲ得ルト
モソノ時ハ即チ訴訟人代理人ナリ裁判官

ニアラス

ソノ節ニ至リソノ裁判官自ラ裁判ヲナスト云フトキハソノ訴訟ハ故障ヲ述ヘテ他ノ裁判所ヘ移スヲ得可シ如シソノ裁判官ニテ此訴訟ハ己レ先ニ親族ノ訴訟ナル故我ハ関マスト云フトキハソノ原告人ニテ故障ヲ述フルヲ得ス然レハ裁判官二人以上ソノ関係ノモノアルトキハ原告ノ内一方ノ頼ニヨリ他ニ裁判ヲ移スナリ

勞八十七條 双方ノ并論ハ別段法律ニテ陰密ニ為ス可キヲ定メタル場合ノ外之ヲ公ケニ為ス可シ○然レハ公ケニ并論ヲ為ス時ハ甚シキ耻辱又ハ不都合ヲ生ス可キニ於テハ陰密ニ

并論ス可キヲ裁判所ヨリ言渡スヲ得可シ然レ其言渡ヲ為サントスルニハ裁判役等許談ヲ為シ其許談ノ旨ヲ控訴院ノ検事長ニ告知スヘシ又控訴院ニ為シタル訴訟ノ時ハ之ヲ裁判事務宰相ニ告知ス可シ

風俗ニ関スルヲナレハ陰密ニ為スナリ此条ハ同事ヲ反復シテ言ヒタルモノナリ陰密ニナスヘキ種類ヲ定メント欲スルハ難シ善キ風俗ニ反スルヲハ惣テ此条ニ入ル必ラス男女ノヲミアラス

然レハ佛ニテ風俗ニ関スルト云ヘハ多クハ男女犯者等ニ在ルナリ

本ノ場合ニ於テハ原告被告人ニ代答師等ハ

一般ニ言渡シ傍聴人ハ怒ラ追ヒ払フ但シ代
言人ハ残スナリ年ノ為メキ又代ハ言人ハ後學ノカメ必ラス
歿ル

不都合トハ刑事ニ支ク関スルコトナリタトハ
ハ毒殺ノ事アルトキ衆人ツキ居ルトキハソ
ノ毒藥ヲ知リ得ル等ヨリ害ヲ醸スコトアリ
不都合トハ通語ヲ以テ昏タルモノナリソノ
毒藥等ノ世間ニ弘マル等ヲ防ク為メナリ
事ニ依リ風俗ニ関スルヨリ不都合ノコトニ涉
ル故ヲ以テ裁判官ニテ陰密ニナスコトアリ
タトハハ人アリ墮胎ヲナスコトアリ手術藥料
等ヲ以テ之レヲ為ス此等ハ風俗ニ関スルコ
トナレトモ亦タ餘人ノソノ法方ニ倣フコトヲ恐

ル、ナリ重モニ不都合ニ係ルコト多シ
一體裁判ハ公ケニ為サハルヘカラサルモノ
ナリ然ルヲ陰密ニナス之レ變体ナリ故ニ之
レヲ檢事長又ハ裁判事務宰相ニ告知スルナ
リ

縣裁判所ハ以テ訴訟ヲ為ストキハ檢事ヨリ檢
事長ニ告知スルナリ

旁八十八條 吟味ノ席ニ出ツル者ハ皆帽ヲ脱
シ裁判所ヲ敬禮シテ静黙シ且然テ裁判所ノ上
席人ヨリ喧噪ヲ防ク可キ為メ言渡シタル諸事
ハ直ニ之レヲ細密ニ遵守ス可シ

裁判所以外ノ地ニテ裁判役又ハ檢事ノ職務ヲ
行フ場所ニ於テモ亦此規則ヲ通シ用フ可シ

細密トハ正シク循守ス可シト言渡サレタル
 事ヲソノマヽニ守ル可シト云フマテノ意ナ
 リ
 帽ヲ脱スルノミニテモナラス敬禮ヲスルノ
 ミニテモナラス静黙ニスルナクソノ他偃卧
 又ハ足ヲ出ス等ノ一アレハ裁判官ニテ使吏
 ニ命シ進出サシム使吏ハ今ハ止メタリ追フ
 ニ及フマシト云フ一ヲ得ス直ケニ命ヲ奉ス
 可シ
 後項ノ一ハ時々裁判官ニテ損害又ハ死傷等
 ヲ揆スル為メニ出掛ケル一アリソノ時ノ一
 ヲ言フソノ時モ同様敬礼ヲ尽ス可シ
 旁八十九條 原告被告ノ互ニ并論スル時又ハ

裁判役及ヒ檢察官ノ言詞ヲ述フル時又ハ

裁判所ノ上席人掛リ裁判役及ヒ檢事同ハ謹責
 命令ヲ為ス時又ハ裁判役ノ言渡ヲ為ス時ニ当
 リモ言ニ言語ヲ發シ又ハ賞賛及ヒ誹謗ヲ為シ又
 ハ如何ナル方法ヲ用ハス喧噪スル者使吏ノ謹
 責ヲ受ケ猶止メサル時ハ吟味ノ席ヲ退ク可キ
 一ア命シ若シ其命ニ從ハサル時ハ之ヲ捕ヘテ
 直ケニ二十四時間裁判所附屬ノ獄舎ニ繋ク可
 シ但シ獄舎ニ於テハ吟味ノ調各ニ記シタル裁
 判所上席人ノ命令各ヲ視タル上其犯人ヲ受取
 ル可シ

来リ取クモノタトヒ貴人ニテモ賞賛誹謗等
 ヲナストキハ此條ニ言フ如ク裁判官ノ命ヲ
 待タス使吏ヨリ謹責ヲナシ猶止メサレハ云

云ス九ナリ

調書ハ即席ニテ書クナリ

右ノ場合ニ於テハソノ裁判席ハ暫時止ムナ

リ

此時ハ何某ノ云々ニ付何分時間吟味ヲ停止

セリト裁判所ノ記録ニ記ス

此ノ捕ヘラレタルモノハ姓名ヲ言フヲ好

マサルモノ多シソノ姓名ハ知レストモソレ

ナリニ処分スルナリ

時ニヨリ弁論中ニ一時ニ惣人ノ喧噪ヲ起ス

トアリソノ時ハ惣テ追ヒ出スナリ暫時ニシ

テ又門ヲ閉キ吟味ヲナスソノ時ハ使吏ニテ

前キニ喧躁ヲナシタルモノハ入レサル様ニ

ナシ新タニ来ルモノ、ミア入ル、ナリ

第九十條 若シ裁判所ニテ職務ヲ行フ者其喧

躁ヲ為シタル時ハ前条ニ記シタル罰ノ外定期

ノ時間其職ヲ停メラル可シ但シ初犯ニ付テハ

其定期三月ニ過ク可カラス○其言渡ハ前條ノ

場合ニ等シク假ニ之ヲ執行フ可シ

職務ヲ行フ者トハ昏記 使吏 代昏師 代

言人 番兵 等ヲ云フ裁判官ハ此中ニ入ラ

ス

此定期ハ期限ノ下ナリ初犯三月ニ過ク可

カラス再犯以上ハ裁判官ノ見込ニ次ぎナリ

通常控訴ノ出来ルモノニテ裁判ニ服セス控

訴スルトキハソノ控訴期限マテハ裁判執行

ヲ駐止シテ置クナリ然レモ其ノ事ハ假リニ
先ツ之レヲ執行フナリ

元ヨリ終審ノ裁判ナレハ其論アルヲナシ金
額ノ定マラサルモノハ惣テ控訴ヲナスコトヲ
得ルナリ

第九十一條 裁判役又ハ其他裁判所ノ官吏ニ
其職務ヲ行フニ當リ之ニ不敬ヲ加ヘ又ハ却迫

シタル者ハ裁判所ノ上席人及ヒ其裁判役又
ハ検事ノ命ニテ之ヲ捕ヘ直テニ裁判所附屬ノ

獄舎ニ繋キテ二十四時間ニ吟味ヲ為シ裁判所
ニテ其罪犯ヲ證スル調書ヲ視タル上一月ニ過

キヤル時間之ヲ禁錮ノ刑ニ処シ且ニ二十五コ
トクヨリ少カラス三百コトカラサレバ罰

金ヲ言渡ス可シ

若シ其犯人ヲ直テニ捕フルコト能ハサル時ハ裁

判所ヨリ二十四時間ニ其者ニ付キ前ニ記シ又

ル罰ヲ言渡ス可シ但シ其者十日内ニ自カラ出
訴シテ獄舎ニ入ル時ハ其罰ノ言渡シニ付キ故

障^ヲ述フルコトヲ得可シ
後項其犯人ヲ直テニ捕フルコト能ハサル時ノ

言渡昏ハソノモノ、住所ノ知レタルトキハ
ソノ住所ヘ送達スモレソノモノ、住所ノ知

レサルトキハ裁判所ノ門扉ニ張り出スナリ
十日内ニ自カラ出訴シテ獄舎ニ入ル時ハ故

障ヲ述フルコトヲ得ルハ代人ニテハ能ハス必
ラスソノモノ自カラ来リテ入獄スルトキナリ

第九十二條 若し其罪施體又ハ加辱ノ刑ニ処
ス可キモノタル時ハ其犯人ヲ捕ヘテ刑法裁判
所ニ送り治罪法ニ定メタル規則ニ循ヒ其罪ヲ
訴ヘ之ヲ罰ス可シ

縣裁判所ノ權外ニアル罪人ノ処分ヲ云フ莫
譯ニハ刑法裁判所ト昏イテアレトモ原昏ニ
ハ權内ノ裁判所ト書イテアリ

然ルトキハ左ノ三ヶ所ノ裁判所ノ内ニテ之
レヲ裁判スルナリ
罪ヲ犯ス所ト一ツ捕ハレタル所ト一ツ住所
又ハ住居一ツ惣テ三ツナリ

此三ツハ權内ノ裁判所ナリ
○第九十六章 裁判役ノ評議及ヒ昏面ニ因テ吟

味ヲ為ス事

此六章餘リ入用無之且此所ニテ説クヨリハ
裁判言渡ノ所トニテ説ク可シ

第九十七章 裁判言渡ノ事

第九十六章 裁判ハ裁判役中可トスル者ノ數
多キニ從ヒ即時ニ之ヲ為ス可シ然レ裁判役ハ
言渡ヲ為ス前ニ其會談ノ室ニ退キテ評議ヲ為
シスハ後ノ吟味ノ日迄裁判ノ言渡ヲ延ハス
ヲ得可シ

通例訴訟難事ニ非ケレハ原被告人相答弁シ

検事ソノ意見ヲ述ヘ然ル後裁判官裁判ヲ言

渡ス之レ手順ナリ

ソノ間ニ故障ノ起ルトキハケ様、ト云フ

条々ノ裁判言渡ノ章ノ後ニ出ツルハ錯簡ト云フヘシ何トナレハ裁判言渡ノ後ニ故障等ノアルヲナシ

裁判言渡

裁判言渡ト云フヲ説カントス

此語ハ如何様ナルトモ起ルトモソノ争ヲ決定セリト云フ字ナリ

裁判官ニテ裁判言渡ス前マテハソノ理非曲

直ヲ考ヘルモ可ナリト虽モ一旦言渡シタル

上ハ駢カ疑念アルヘカラス又何人ヲ論セス

ソノ裁判ヲ可否スルヲ能ハサルモノトス之

レ規則ナリ此章錯簡アリ故ニ其順序ヲ立テ

、説カントス

裁判ヲ決定スルニ三ヶ条アリ

第百十六十七十八ノ三ヶ条之レナリ

裁判官裁判ノ付ニ付テ評議ヲ為シ決定スソ

ノ決定ノミニテハ裁判トハ云ハス又トヘ陰

密ニナシタル吟味ナリトモ言渡ハ公然トナ

ス故ニ言渡スマテハ裁判トハ云ハス

裁判ヲ言渡シタル上ハ之レヲ書付ニ作ラサ

ル可カラズ之レハ昏記ニテ為スソノ昏付ケ

ハ負ケタルモノヘ送達セサル可カラズ此作

リ万ハ大キニ面倒ナル手数ナリ

第百三十八條ヨリ第百四十八條マテ之レナ

リ第百十九條ヨリ第百三十七條マテハ裁判

言渡ニ関係シタルハ節目ヲ挙ケタルモノニ

テ種々ノトニ係ル之レハ皆テ必要ナルモノ
ナリ

第百十七條 裁判役中其説ノ二箇以上ニ分ル
、時ハ最モ寡數ノ説ノ裁判役多數ノ説ノ裁判
役中ノ一方ニ合同ス可シ然レニ總數ノ説ヲ再ヒ
算ハタル後ニ非レハ必シモ合同スルニ及ハス
第百一ニ裁判言渡ノトヲ言ハシ

原告被告トモ各ソノ意ヲ述ヘ了レハ檢事意
見ヲ述フ事ニヨリ述ヘサルトモアリ右了レ
ハ裁判官ニテ此事件ハ承リタリト云フ右ノ
手頃済ムハ此事件ノ評説ヲナシ

ソノ説ノ多キ數ニ決スソノ多キトハ半數ヨ
リ一人多ク云フ三人ナレハ二人五人ナレハ
三人ノ如キナリ

仏ニテハ裁判官少クトモ三人以上ナリ
成リカケ奇數ニナス六人四人等ノ偶數ニハ
セス之レハ説ヲ分カツ時ノ為メナリ
タトヘハ四人ノ裁判官アリテ二人ツ、分カ
レタルトキハ必ラス上席人ノアル方ノ勝ツ
ニアラス

裁判官三人ニテ三人トモ違ヒ四人アリテ二
人ツ、トナルトキハ其説分カル、トナス
ソノ時ニハ猶外ノ裁判官ヲ呼ヒテ再ヒ吟味
ヲ仕直ス
三人ノトキハ二人ヲ加ヘ五人トナシ四人ノ
トキハ一人ヲ加ヘ五人トナス

如シ小村ノ裁判所ニテ外ヨリ呼フ裁判官モ
 ナキトキハ代言人ヲ席頃ニ取リテ之レヲ加
 フ
 如シ代言人モナキ所ロナレハ代昏人ヲ以テ
 之レニ加フ
 五人ノ裁判官二人ツ、合ヒ一人離レ三ツト
 ナリタルトキハ亦仕方違フナリ
 ソノ時ハ裁判上席人ニテ猶一応考フヘシト
 云フ暫時ニシテ又ソノ説ヲ図ケハソノ離レ
 タル一人ハ一方ヘ附クナリ
 或ハ二人ノモノガ一方ヘ附クモアリ
 イツレ三人ニサヘナレハソレニテ宜シ
 前ス場合ニ於テ上席人ニテ考ヘヨト云フ再

考ノ後其説分レ別ニ考ノナキトキハ尙レタ
 ル一人ノモノニ何レナリトモ一方ヘ附クヘ
 シト云フナリ
 是レハ少レク押付ケルヨフナレトモ夫ニテ
 決定スルナリ
 五人ノトキハ必ラス前ノ如クナスト定マリ
 タルニモアラス図直スフモアリ
 五人ニテ四ツニ説ノ分カル、ナリソノ時
 ハ一方ヘ附クヘシト言フフ能ハス前キノ一
 人尙レタルトキハ一方ヲ擇ムフヲ得ルト虽
 トモ之レハ擇ムフヲ得サレハナリ
 ソノ時ハ一人ヲ加ヘテ六人トナス六人以上
 ニ加フルフヲ得ス何トナレハ縣裁判所ハ七

人以上ノ裁判官ヲ置クヲ能ハサレハナリ
此百十七條ハ前ニ言フ五人ノ説ノ三ツニ分
カレタルトキ再ヒ考ヘヨト云フトキノナ
リ
五人ニテ四ツニ分カレタルトキハ一方ハ附
ク可シト云フヲ得サルナリ之レ説ノ分カ
レタルモノナリ
再ヒ寔ヘタル云々原語ニ度々ニ説ヲ聞キ入
レタルト云フ意ナリ一人一人ノ説ヲ聞クナ
ナリ

原文ノ直譯

然リト虽氏ソノ合同スルモノ、声刀再ヒ摘
マレタル後ニアラサレハ合同スルニ及ハス

第百十八條 可トスル者ノ數ト非トスル者ノ
數ト均シキ時ハ別ニ裁判役一員ヲ呼ビ別ニ裁
判役アラサル時ハ裁判役ノ代員ヲ呼ビ又裁判
役ノ代員アラサル時ハ其裁判所附屬ノ代員人
一員ヲ呼ビ代員人アラサル時ハ代唇師一員ヲ
呼ビ再ヒ吟味ヲ為ス可シ但シ此等ノ者ハ其任
ヲ受タル順序ニ從ヒ之ヲ呼フ可シ
之レハ順序ヲ云ヒタリ成ルルニ上等ノ者ヨ
リ順ニ呼フナリ
再ヒ吟味ヲ為スハ訴訟ヲ能直スナリ
我カ同役ナリトテ必ラス我カ説ヲ枉タルナ
ハナシ

訴訟法會筆記

七年六月三十日

裁判言渡ノ結局ハ裁判官ノ説多キ方ヲ取ル
トハ過日説キタリ

裁判官四人ノ時ハ三人五人ノトキモ三人六
人ノトキモ四人ニアラサレハ半数ヨリ多キ
トハ云難シ

説ノ分カレタルトキハ外ヨリ裁判官ヲ時ヒ
或ハ代唇師代言人ヲモ呼フナリ
説ノ三説ニ分カレタルトキハ權威ニテ押付
ヨフナシトモ一人ハ強テ一方、付カザルヘ

カラサルヲヲモ説キタリ

若シソノ訴訟ノ難件ナラサルトキハ裁判席
上ニテ後口ヲ向クカ又ハ草紙へ唇キ付タル

等ニテ相談ヲナシテ決ス

若難件ニテ席上決シ難キトキハ評議席へ返
テ之ヲ談決ス

猶難件ナレハ此次ノ閑暇マテ延ハスヲモア

リ時ニヨリテハ翌日言渡スヲモアレ尺多分

ハ八日目ニ言渡シヲナスナリ

更ニ難件ナレハ裁判官中ノ一人ヲ撰ミソノ

眼目タル件々ヲ掲ケテ啓告セシムルヲアリ

リノ時ハ八日目又ハ十五日目ニ言渡スヲナ

リ

猶更难件ニテ會談事件ニ関スル時ノトキハ

或ハ莫当ヲナシ或ハ表ヲ作り終ニ原告ヨ

リ昏付ケテ出サシムルヲアリ之レヲ昏付ケ

ノ吟味ト云フ必ラス三十日位ハカ、ルナリ

裁判席ニテ直ニ言渡シヲナサスレテ翌日ハ

日十五日啓告又ハ書付吟味等ノ節ハ評議ニ

付延引ト云フ啓告ヲナサスレテ延引スルト

キハ單ナル評議ソノ次ハ啓告評議ソノ次ハ

啓告先ニ昏付吟味ノ評議ト三ツニ分ケテア

ルナリ

過日第第六章ハ説カスニ置キタリ

此第六章今ハ必用ニハアラズ只昏付ケ吟味ノ

トニ及ビタルユヘ一忘註シタリ

今日右ヲ説キタテハ訴訟法ノ甚々愚ナルヲ

以テ諸君ノ一笑トナラシ

第四ノ一ハ第九十三條ニアリ

芽五ノ一ハ芽九十五條ニアリ
ソノ餘ノ条期限等ノ事ニテ原告人十五日被
告人ハ十五日ト言フ類ナリ
供書付吟味ヲナス等ハ甚々稀ナルトナリ
過日説キタル通り言渡サバル間ハ裁判トハ
言ハス故ニ未タ言渡サ、ル間ハ裁判官ニテ
説ヲ換ルモ可ナリ
以下條ヲ追テ説カン、又ハ事ノ順序ヲ以テ
説カンカ
イツレニテモヨシ
然ラハ順序ヲ以テ説カントス芽百三十八條
ニ移ル

言渡アル毎ニ直テニ其言渡書ノ正本ヲ記シ
テ姓名ヲ手署ス可シ又其言渡書ヲ記シタル
取訟ノ簿冊ノ端ニ其裁判言渡ニ出席シタル
裁判役及ヒ検事ノ姓名ヲ附記シ之ヲ附記シ
タル部分ニモ亦上席人及ヒ書記官其姓名ヲ
手署ス可シ
裁判ヲ言渡スキハソノ裁判ニ関係シタル裁
判官ハ必ラスソノ席ニ出ツヘシタトハ外
事ヲ取キ居ルトモ必ラス同席ス
已里ニテハ裁判官ハ甚々多シ一周間ニ三度
裁判席ニ出ツソノ他ノ日ハ他ノ許設等ニ付
キ出席セス
一周間ニ三度ト云ハ甚々閑ナル様ナレト

モソノ間不斷取調モノアリ閑ニアラヌ
検事モ言渡ニハ必ラス陪席ス其ノ義務ヲ以
テ意見ヲ述フルコトアリ又裁判官ノ求メニヨ
リ意見ヲ述フルコトアリソノ意見ヲ述ヘタル
検事ニテ陪席ス

検事ハ許談席ヘハ関係セサルナリ
此條ノ通りニテ言渡シタル上ハ決シテ過誤
ナリナト云フコト能ハス原被告トモ亦タ彼是
云フコト能ハス左モ控訴上告等ノ道ハアルヘ
シ

右ノ済ミタル上ハ裁判所ノ簿冊ヘツノ上席
人ト書記官ハ調印ヲナスナリ
右簿冊ノ第一紙ヘ裁判官検事共ニ上席人各

記トモ残ラス姓名ヲ記ス

右上席人各記ニテ簿冊ニ調印スルハ義務ナ
リソノ調印セサル前ニ各記ニテソノ寫ヲ相
手方ヘ与ヘタルトキハ偽リノ裁判ナリト云
ヒテ訴フルコト得ル

言渡レハ口ニテナスユヘ消ヘルナリ依テ右
言渡各ヲ作り永世不朽變セサルヲ表ス
ソノ上席人ノ調印スルハ大切ナル證據ナリ
若シ怠ツテ調印セサルコトナラシメニ為ヌ
毎月検事ニテ之レヲ検閲ス

万一調印ヲナサルコトアルトキハ検事ニテ
昏付ヲ以テ其筋ヘ訴フコト時ハ書記ハ職ヲ
停メラレ上席人ハ司法卿ノ譴責ヲ受ク

裁判言渡ノミニテハ裁判ノ執行ニハナラス
其言渡昏ノ副本ヲ以テ執行ス其副本ヲゴロ
スト云フゴロスハ大ナルト云フニテ大昏
スルヨリ此名ヲ付ケタリ
ゴロスト云フ副本ヲ使吏ヲ以テ相手方ニ送
達ス其送達ノ上又ハ後日執行書ヲ送リタル
上ニアラサレハ執行スルニ得ス
言渡ノミニテ書付ナケレハ負ケタルモノハ
執行ノ下ヲ告ルニ能ハス故ニ此ゴロスヲ用
ユ之レヲ裁判言渡第一ノ書付ト云フ
此寫ハ元ヨリ裁判言渡簿冊原書ノマ、ニ書
イテアルナリ

裁判言渡書ハケ條ト道理トニタ通り書イテ

アルナリ

佛ニテ一千七百九十年ノ改革以前ハ裁判言
渡ニ道理ヲ付タルトハナサ、リシ然ルニソ
ノ後ハソノ道理ヲ云ハサレハ權外ノ下ヲ為
シタルトナル故ヲ以テ必ラス何ノ道理ヲ以
テ何々申付ト云ナリ
道理ニハ事柄ノ道理ト法律ノ道理トノニツ
テ言渡ス

タトヘハ暴行ノ為メニ契約ヲナシタル訴ナ
レハソノ事柄ヲ吟味シタル上ソノ暴行ニ依
テ契約ヲナシタルニ右ノ契約ハ廢棄スル
ト言渡ス等又ハ賣買ナレハ何物件ヲ何月何
日ニ引渡スヘキ所口引渡サ、ルニ付キ云々

等右ノ道理ニヨツテ何法律ノ何條ニ依テ何
々ヲ言渡スト云フナリ
詭欺ニヨリテ錯誤シ買フタル物件ヲ更ニ轉
買シタル物主ヲ争フニ付テ議論アリタリ右
等ノ如キ法律ニ正條ナキ議論マテモ云ハサ
ルヲ得サルナリ故ニ時ニヨリ法律議論ヲ甚
長ク書イテ言渡スナリ
時ニヨリテ三葉モアル言渡書アリ之レハ法
律ヲ論シ詰メタル事柄ヲ盡ク書キ續クルエ
ヘナリ一部ノ書ノ出来タルト思フ位ナリ
時ニヨリ事柄甚ク長クナルナリ事柄ニヨ
リ法律ニ寄セテ代言人等ノ言フナリトキ
ハ裁判官ニテ法律上ヨリ論スルナリ縣裁判

所ニハ何ニ依テト云フ
控訴廳ニテハ何々ニ考ヘルト云フ右ハ古キ
仕来リナリ縣裁判所ニテハ何々ニ考ヘルト
云フナリ得ス
時ニヨリ法律何ノ條ニヨリ何々ヲ言渡トハ
カリ云フハ平坦ナルナリ
タトヘハ不動産取戻シノナリ付テハ此事柄
ハ何々ノ事柄ニテ何々ノ道理アリ何々ノ條
ニ依リ不動産ヲ戻シ并ニ作徳トモ取戻スヘ
シト云ヒ渡ス
時ニヨリ不正ノ心ニテ占有シタル場合ニ於
テハソノ不動産ヲ取戻シ并ニ何年以來ノ作
徳マテモ取戻スヘシト言渡ス

プレスフレフシヨシノ期限過キタル訴訟ヲ
訴へ出テタルトキハソノ期限ノ過キタル
ヲ言出サ、ルユヘソノ願ハ立タスト言渡ス
アリ

金ヲ借りタル事件ニ付テハソノ元金ニ利分
ヲ添ヘテ返スレト言渡スアリ

以法律ニ事柄ト道理トハ書イテアレトモ如
何ナルヲ事柄ト云ヒ如何ナルヲ道理ト云
フハ書イテ無之

別段ナル事柄ニ付キケ條文ケニテ言渡ス事
法律中ニ有之通例ノハ書イテ無之

タトヘハ極貧ノ負訴人アルトキハ裁判所ヨ
リ期限ヲ延ヘルアリ右等ハ何事モ書カサ

ルナリ第百二十四條ヨリ第百二十七條マテナリ

第百二十六條第百二十七條第百二十八條ハ
拘留ノハ存シアルトキノハナリ右等ハ言

渡ノ書キ方アリ

第百二十八條ハ損失ノ償ノハ云フ

第百三十條ハ費用ノハニ付テ罰スルヲ云

フ第百三十五條ヨリ第百三十七條マテハ假リ

ニ裁判ヲ執行スル手次ヲ云フ

右ハ未タ説カス説キカ、リタル分ノ濟ミタル

上ニ説クヘシ

裁判言渡ニ道理ヲ付クルト道理ヲ付ケサル

ノニタ通りヲ説キタリ

道理トケ條ハカリニテ不分明ナルユヘ訴訟

ノ顛末ヲ残ラス書キ續クヘシ
ソノ上ニカリテ一ヲ加ヘサルヘカラスソノ訴訟
ノ役目ト云フ意ナリ
タトヘハ劇場ニテ誰ハ何役ヲナシタルト云
フ如シ

役目ト云フハ原告被告ノ事ナリ原告人ハソノ
身元ヲ委シク書ク誰レノ為ノニ為シタル訴訟ヲ
書ク事ノ為ノトカ第ニ為ノトカ委シク書ク
被告人モ同様ナリ尤モ住所職業ヲモ書ク
相手方ノ願ヒタル一ヲ辨論シタル一ヲモ書ク
ヲ改メテモ一ヲアリ
事ニヨリ裁判席ニテ願ハスニ置テ言渡書ヘ願
ハサル一ヲ足サシムル一アリ

右ノ通り願ヒタル一ヲ削リ願ハサル一ヲ足ス
等ニ於テハレケートシビルヘ取消ヲ願フ一ア
リ之レハ甚不都合ナル一ナリ

裁判言渡しタル後ニ或ハ足レ或ハ削ル一ナトハ
輒スク出未ルモノナリ

身元ノ一ヲ相手方ニ引合フニ身元ノ違フト
キハ書記ヘソノ一ヲ申シ裁判上席人へ裁カ
身元ハケ様ミミニ付ケ様ミミシテ下タサレト云
フ一アリ

第百四十二條ヨリ第百四十五條マテハ今迄ケ
説キタルケ條ナリ

佛ニテ裁判言渡しノ濟ミタル後原被告ヨリ
書記官ヘソノ寫ヲ乞フトキタトヘハ三ツノ一ヲ

願ヒタルヲ一事ヲ刪リニ事ニナシテモラフ
アリ又ニ事ヲ願ヒタルヲ三事ニナシテモラ
フアリ之レハ言渡ハ口上ニテ言渡シ書記ニテ
書付ヲ作ルユヘ右等ノ一アリ右ハ原被告ニテ
裁判所ニ於テ事柄ト道理ヲ云フハ勿論ナレ
トモ原告被告ヨリモソノ事柄ト道理トヲ簡
畧ニ言ハサルヲ得サルナリ
ソノ事ハ

第百四十一條ヲ讀ムヘシ
代書師ノ姓名ハ必ラス書クヘシ
何某ノ代書師ニ何某カ為リ何ミヲ申立タリ
何某ノ代書師ハ何ト申シタリヲモ書ク
裁判言渡書ノミニテハ不足ナリソノ上ニ原被

告ノ身元書ヲ出シ使吏ヲ以テ一方ノモノ
ヘ送達シソノ身元ヲ取調ヘル一アリ若シ
一方ノ者ニテ難應コトアルトキハ其返書
ヲ送ルハ二十四時間ニ為スナリ
ソノ身元ヲ慥カニセサルヘカラサル一ハ相續人
等ニタトヘハ
親ノ所有金大ケノ相續人アリ又ハ通例ノ相
續人アリ故ニソノ身元ヲ取調ヘサルヘカラサ
ルナリ

タトヘハ三事ヲ願ヒタルニソノ内一ト事ヲ削
リ不都合アルトキハ別段願ヒテソノ言渡書
詭欺ニテナス一モアリ又ハ錯誤ニテナス一モアリ
書記ニ於テハ申立ヲ書クモノニテ権ノナキモノユ

へ佛國ニテハ右等ノ間違ヒヲ生スル弊アルナ
リ

裁判言渡ヲ説カレ

裁判言渡ハ原被告人ヨリ申立タルトニ從ツ
テ言渡スモノナリ

ソノ申立ニ依テ黑白ヲ付クルハ裁判官ノ職ナリ
言渡ハ口上ニテ事柄ト道理ヲツヰリケ様トト言
渡スノミ原被ノ申立タルトハ言ハスソノ時原
告ヨリ出シタル書付ケハ一旦下ケルナリソノ後書
付ニテストキハ原被告ノ申立タルトヲ盡ク書
クナリ

右ノ通り後ニ書付ケヲ作ルユへ原被ヨリ三事ヲ
一事ニ申立ルトモ書記ニテ弁別付カス故ニ間

違トナルナリ

タトヘハ貸金ニ付元利等ニニタ事ヲ願ヒタル
ニ後ニ言渡書ヲ書クトキ利金ノ方ヲ削ツテ元
金ノミノ一ト事トナストキハ一方ヨリ願ヒ非常
ノ道ヲ以テ取消ヲ願フト出来ルナリ

一ト事ヲ願ヒタルニニタ事ヲ書クトアリ之レモ前
ノ手次ヲ以テ直スト出来ルナリ

此事ハ餘程不思議ノトナリ悪キ事ハ後ニ言
ハレ原告人ノトヲ違ヒタルトモ被告人ノト

ヲ違タルモ一方ヨリ直スヲ願フハ同シトナリ
裁判席ニテ原被ニテ申立ヲナスニ神ニ誓ニテ
後申立ツルヤ

誓ヲナストナシ

莫ニハ誓アリ佛ニテハナキヤ

佛ニテハナレ莫ニテハ旧習ニヨリテアルトモアリ
申立ヲ書記カ書キ取ルヤ

書キ取ルトナレ

裁判官ニテ原被ノ申立ヲ以テソノ理非ヲ弁別
シテ裁判ヲナスニ後ニ至リ原被ニテ左様ノトハ
言ハスト言ヒタラハ如何スルヤ

代書師ニテ見込ミヲ付ケルマテニテ裁判席

ニテ原被ニテ何事ヲ云フトモ聊カ右ニ関係ス
ルトナレ

民事ノ訴訟ニ於テ本人ノ出席スルトハ絶テ無
之双方ノ代書師ニテ問答スルノニ稀レニ本人
ヲ呼ニ出ストアリソノ時ハソノ口上ヲ書クナリレ

代書師ハ見込ミヲ付ケルマテニテ代言人ノミ
論弁スルナリソノ代言人ニテ不足ト思フトキハ
裁判官ノ見込ニヨリ本人ヲ呼出ストアリソノ
時ハソノ申立ヲ書クナリ

代書師ニテソノ訴訟ノ次第ヲ書綴リタル上
裁判官へ出ス書付ケノ残ルモノハ此書付ケノ
ミナリ代言人ナレニ本人ノ出席スルモソノ口
上ハ書付ニシテ残サス裁判官ノ見込ヲ以テ別段
ニ呼ヒ出ス時ハソノ口上ニ書ト留メニナレ残ル
ナリ

代書師ニテ見込ヲ立タルニ付代言人ニテ之レヲ辨
論シタル後裁判言渡トナリタルトキ代言人ニテ
左様ナト云ヒマセスト云ヒタルトキハ如何スルヤ

代言人ノ言ヒタルトニ付キ裁判官ニテヲマイ此
事ヲ言ヒタルヤト問フトハ絶テナレ故ニ代言人モ
私ハ言ヒマセタトハ言ハサルナリ

代言人ハ言ヒサヘスレハ夫レマテナリ間違ヒノ
出ツルハ代書師ニアリ

元ヨリ代言人ノ言フトハソノ時ニテ消ユルナラ
ハ書類ニテ濟ムヘシ代言人ヲ用ユルハ何ノ為
ソヤ

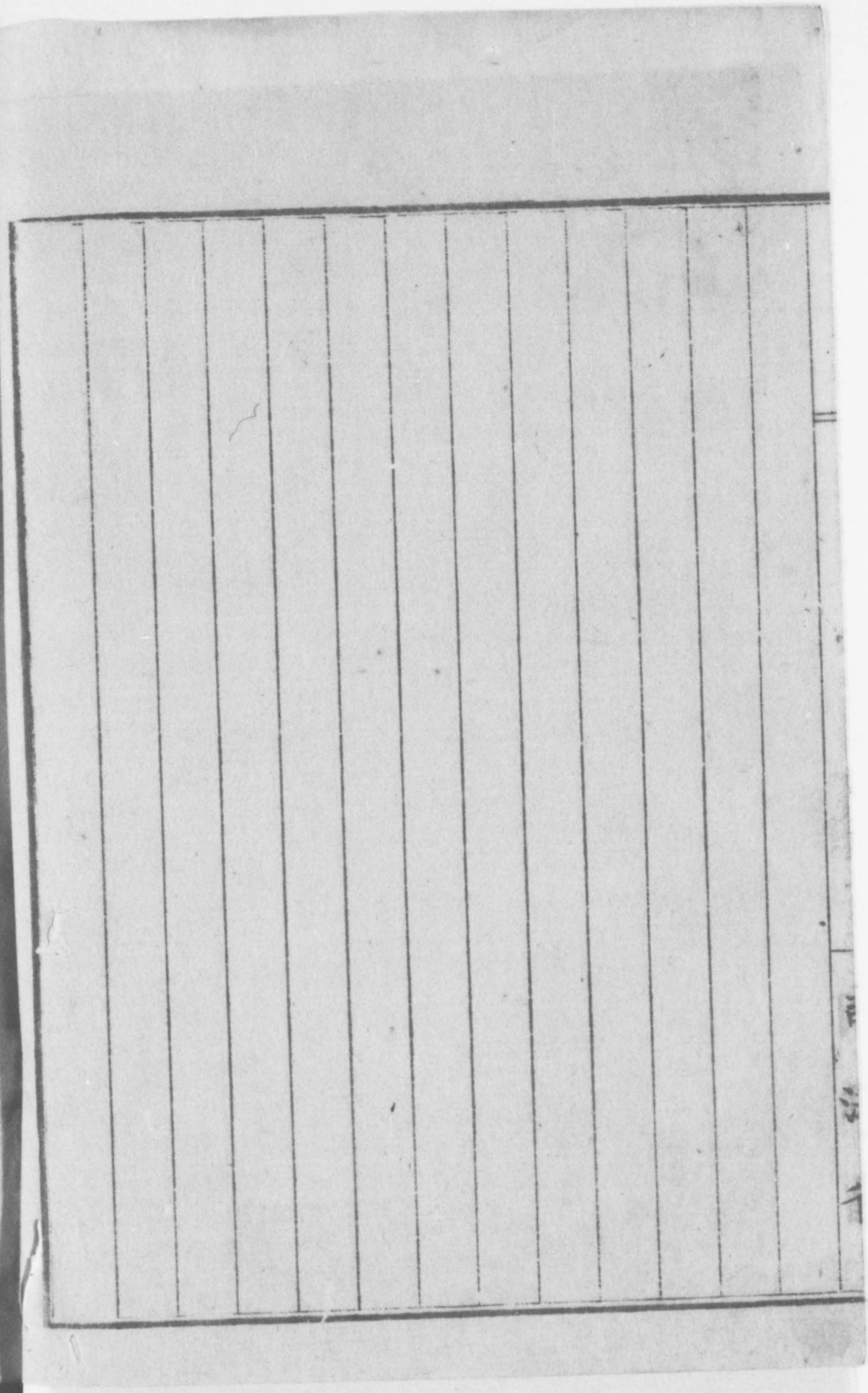
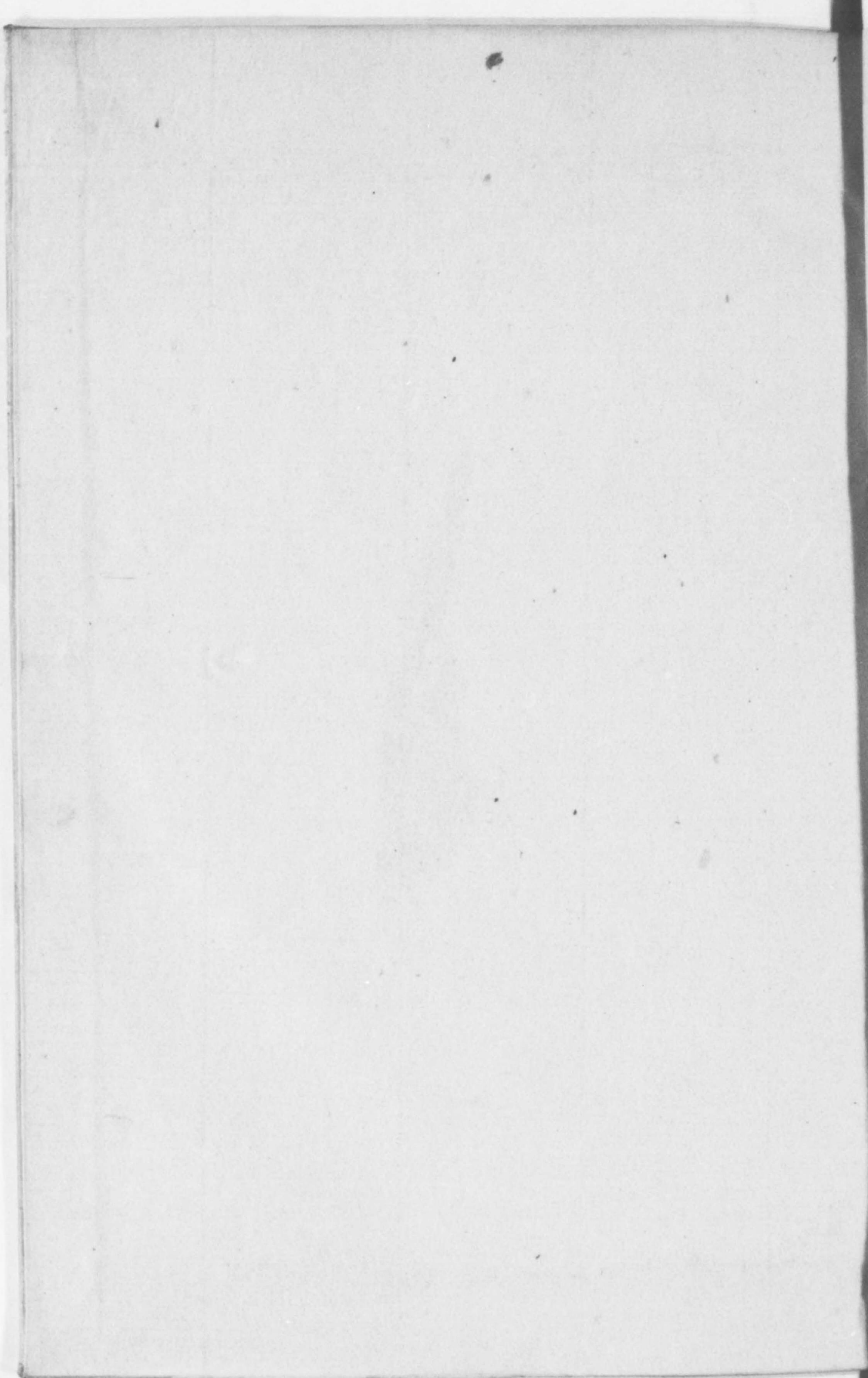
何月何日ノ期限ヲ過キタルニ付キ云ニ付キ
返弁ヲ責ムル等惣テ書面ニテ分明ナレ氏書面
ニテハ充分セサルユヘソノ書面ヲ釋キ明カス
為メニ代言人ヲ用ユルナリ

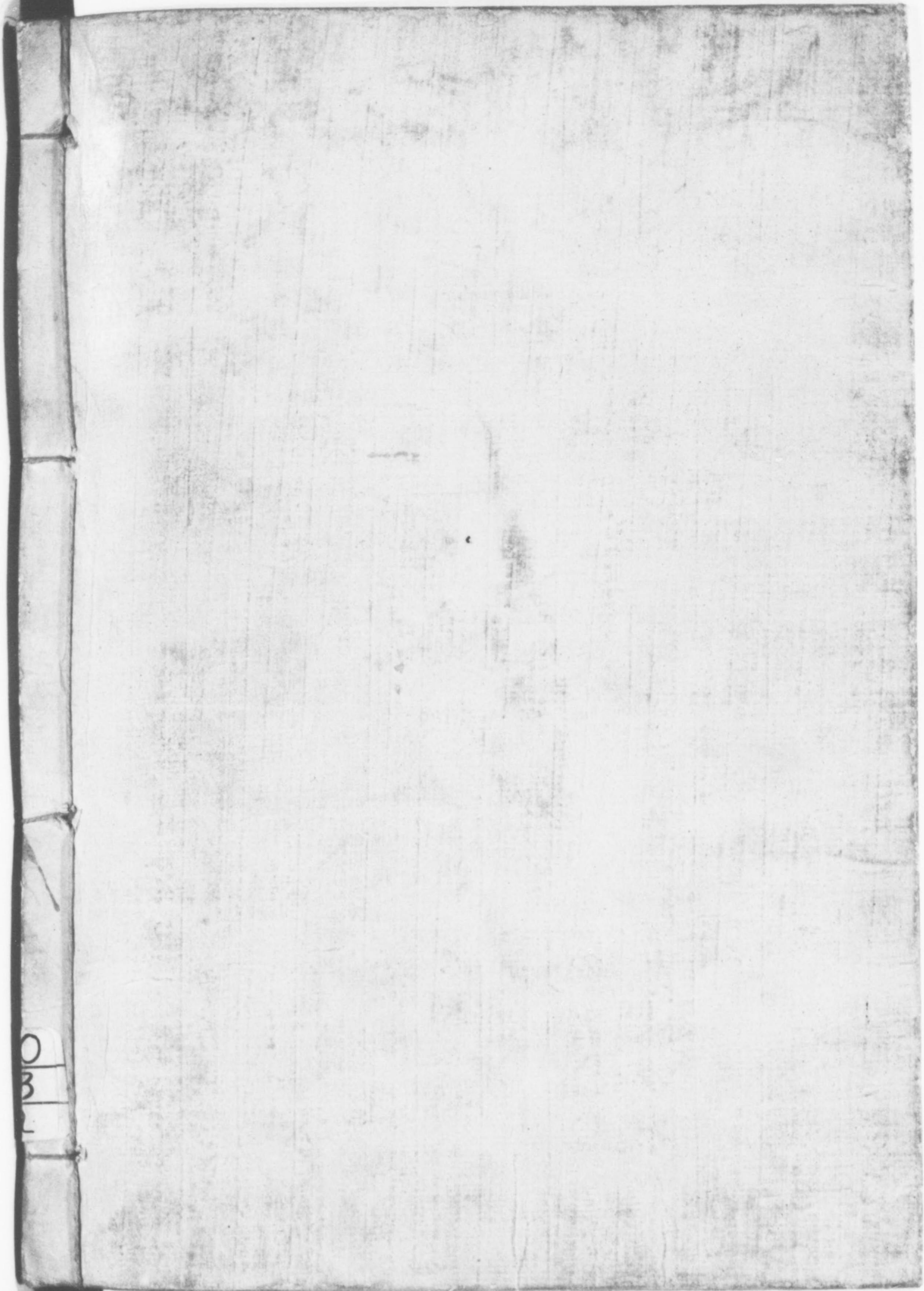
間違ヲ書キ替ルトハナキモノナル氏時ニヨリア

ルナリト説カント欲スレトモ時間既ニ過キタリ
後日ニ説クヘシレ

言渡書ノ寫ヲ乞ヒニ出ツル人ハ誰レナルヤ

代書師ナリ本人ハ決シテ出ス右ニ付キ代書師
ニテ失錯又ハ故造ニテ間違ヒノ出ツルトナリ





0
3
2